

石崎曲り田遺跡住居群の系譜

端野 晋平*

*徳島大学埋蔵文化財調査室

はじめに

石崎曲り田遺跡は、日本列島における水稻農耕開始期の代表的な集落遺跡の一つとして、日本考古学界によく知られている。調査者である橋口達也が、「弥生時代早期」という時期区分を用いたように（橋口，1985）、ここで得られた資料とそれにもとづいた研究が、その後の弥生時代開始論に与えた影響は極めて大きい。しかし、曲り田住居群の系譜については、水稻農耕開始期における朝鮮半島南部からの人間集団の渡来やその文化の受容のあり方の評価に関係してくるにもかかわらず、報告書刊行後、研究書や論考において、いくつかの考察がなされたにとどまっている。これは近年にいたるまで、北部九州の水稻農耕開始期に位置づけられる突帯文土器期（以下、突帯文期と略称する）よりさかのぼる縄文時代晩期の住居跡や、突帯文期に併行する時期に属する半島南部の住居跡資料が少なく、縄文文化・無文土器文化のいずれに系譜が求められるかという議論自体が困難だったことによると思われる。筆者は以前に、半島南部の松菊里型住居跡と北部九州の水稻農耕開始期の住居跡とを合わせて検討を行うことによって、当該期における情報伝達のあり方や人の移動を論じたことがある。しかし、曲り田住居群の系譜については、十分な検討を行えずにいた（端野，2008a・2008b）。そこで本稿では、近年、蓄積の著しい半島南部無文土器時代の住居跡資料と、徐々にではあるが蓄積のみられる縄文時代晩期の住居跡資料との比較を通じて、曲り田住居群の系譜についての検討を試みることにする。

I 問題の所在

曲り田住居群の系譜に関する既存の見解を振り返る前に、まず石崎曲り田遺跡の調査成果の概要を確認しておきたい。石崎曲り田遺跡は、福岡県糸島市二丈石崎に所在し、背振山系から派生した南北に走る独立低丘陵上に立地するが、遺跡が形成された当時は海浜に面し、後背地に低湿地をひかえた水稻農耕受容期における集落形成の最適地であったとされている（図1）。この遺跡は、一般国道202号線今宿バイパスの建設を契機として、1980年に福岡県教育委員会によって発掘調査が行われた。調査の結果、縄文時代前期から平安時代までの遺構・遺物が検出されたが、突帯文期に属する遺構としては、住居跡30基、支石墓1基などが検出され、そこから土器や石器などの遺物が多数出土している。突帯文期の住居跡群は、調査区の中央部付近に集中的に分布する（図2）。検出された住居跡はすべて平面形態が方形ないしは隅丸方形であった。住居跡間の切り合いが激しく、内部施設の把握が容易ではなかったものの、堅穴の床面に四つの支柱穴が確認されたものも2例（8号・18号）、確



図1 石崎曲り田遺跡の位置（国土地理院発行5万分の1地形図・前原より引用・改変）

認されている。8号住居跡のように焼土や灰が検出された例もあるが、掘り込みなどの明確な炉の痕跡が確認されたものはない（福岡県教委, 1983）（図3）。これらの住居跡から出土した土器（図4）は、包含層出土土器とともに、報告者の橋口達也によって、編年的な位置づけが行われている。橋口は、出土土器の分類を行った上で、縄文時代晩期の黒川式期の直後に接続する古い要素をもった土器群を「曲り田（古）式」、それ以外の主体を占める土器群を「曲り田（新）式」として、自身の編年案を提出している。そして、「曲り田（古）式」を佐賀県菜畑遺跡13層出土土器、「曲り田（新）式」を同遺跡9～12層出土土器と山崎純男編年の夜臼Ⅰ式（山崎, 1980）に対応させた。また、菜畑遺跡9～12層出土土器の中でも、古い要素をもつものを「曲り田（古）式」に対応させてもよいとしている（橋口, 1985）。この土器の検討にもとづけば、これらの30基の住居跡は、突帯文期の中でもより古い時期に造られたものとみなし得る。

さて、報告書の刊行後、10年以上の長きにわたって、この遺跡で検出された住居群の系譜については、見解が提出されていなかった。しかし、福岡県江辻遺跡のような他の突帯文期の集落遺跡や半島南部の無文土器時代、縄文時代後晩期の住居跡の事例に関する報告が徐々に増加するにしたがい、それらとの比較が可能となり、いくつかの見解が出されるようになった。以下、時期を追ってこれらを見解を概観しよう。

松本直子は、九州における縄文時代後晩期から突帯文期にかけての住居跡と集落構造とを検討する中で、突帯文期の集落遺跡として江辻遺跡と石崎曲り田遺跡を取り上げている。江辻遺跡については、住居自体は半島系の松菊里住居でありながらも、縄文集落の特徴である円環状に分布し、その中心に大型建物が存在することから、縄文時代後晩期以来の社会構造と世界観が残存していることを指摘する。一方、石崎曲り田遺跡については、住居そのものの系譜については言及していないものの、比較

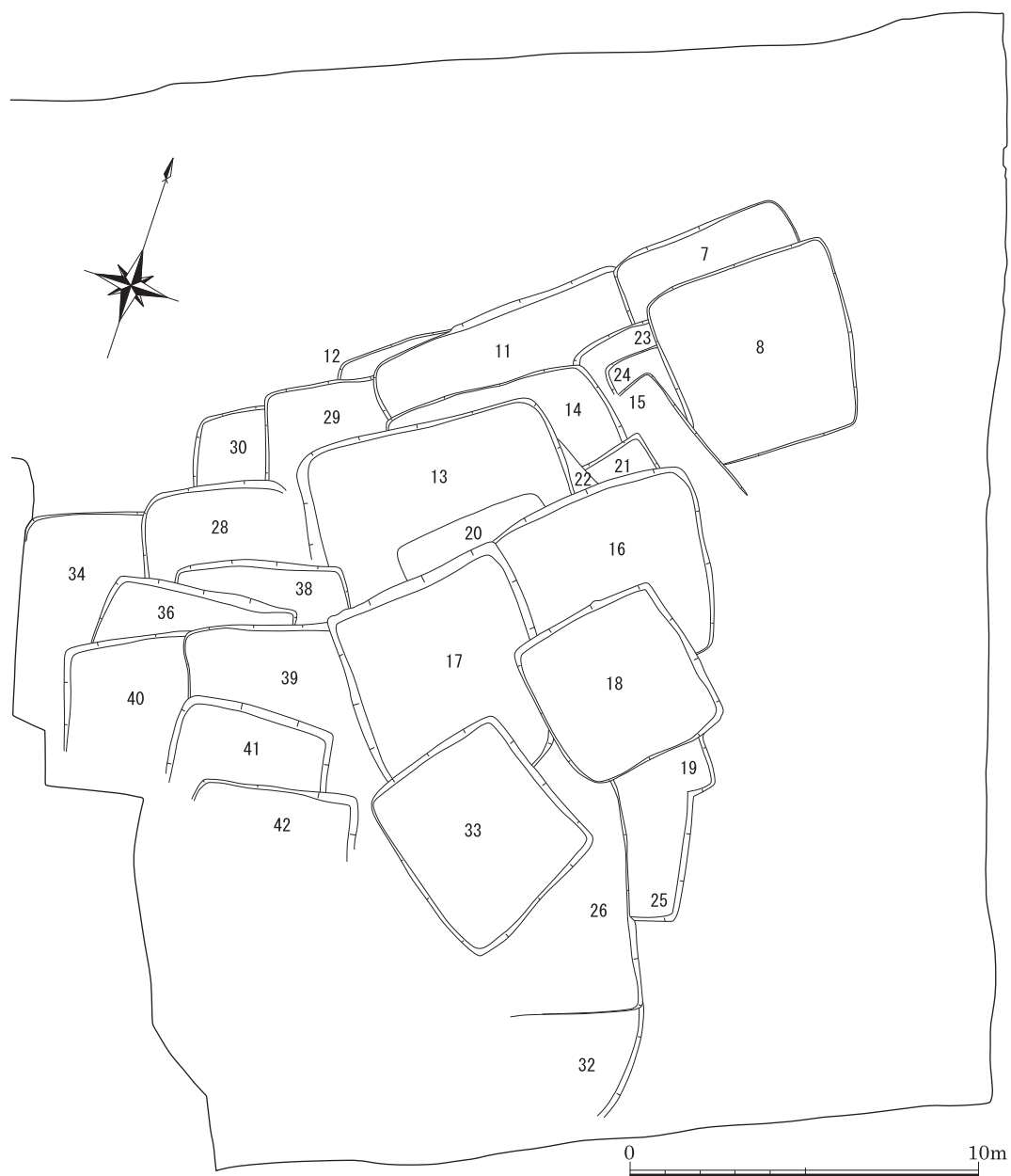


図2 石崎曲り田遺跡住居跡の分布状況（福岡県教委，1983よりトレース・改変）

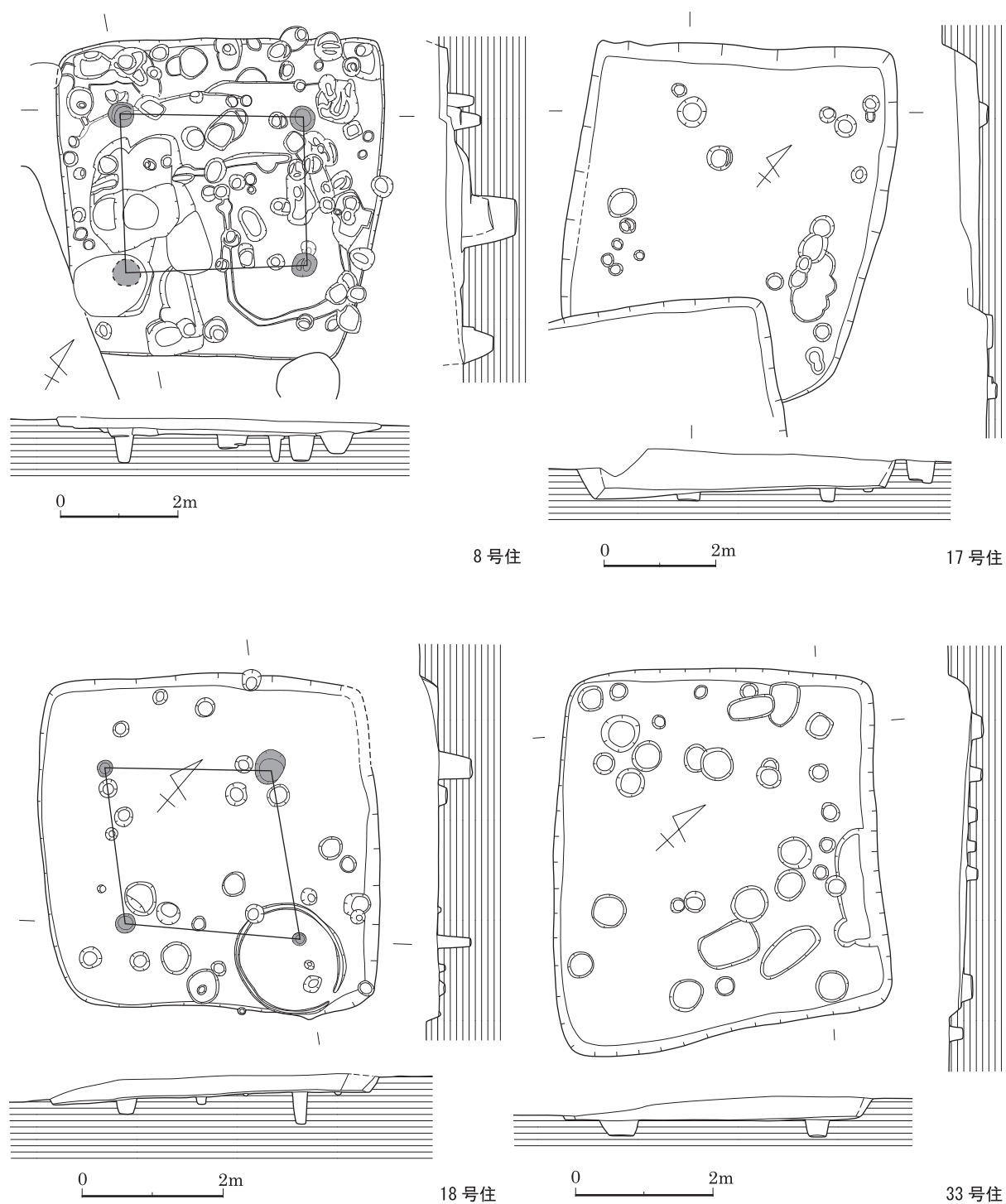


図3 石崎曲り田遺跡住居跡の諸例（縮尺不同）

（福岡県教委，1983よりトレース・改変）

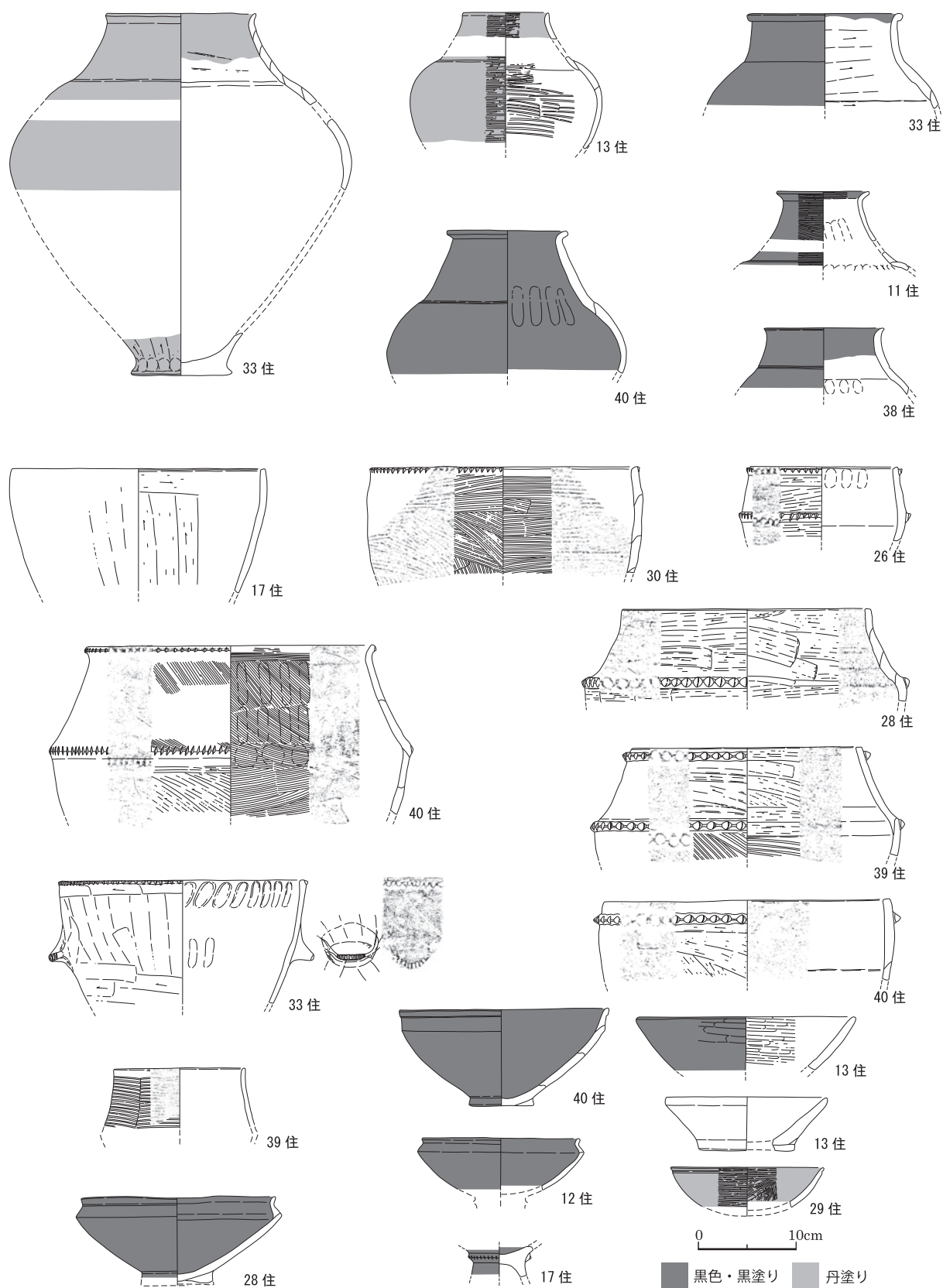


図4 石崎曲り田遺跡住居跡出土土器の諸例 (1/6)

(福岡県教委, 1983 よりトレース・改変)

的短時間に激しく切り合いをもつ住居跡群のあり方は、縄文時代後晩期の六地藏遺跡や星野小学校遺跡のあり方に似ており、突帯文期の集落には縄文時代後晩期からの連続性が認められると述べている（松本，2000）。

高倉洋彰は、弥生時代における倭と韓との交流を論じる中で、水稻農耕開始期の遺跡についても触れ、「忠清南道松菊里遺跡など韓国西部に特徴的な松菊里型円形住居からなる福岡県粕屋町江辻遺跡もあれば、福岡の対岸にあたる慶尚南道蔚山市の検丹里遺跡などに特徴的な方形住居のみの福岡県二丈町曲り田遺跡もあるように、倭と韓の交流にはいくつかのルートが認められる」としている（高倉，2001，pp. 192-193）。これは、石崎曲り田遺跡の住居群の系譜を、半島東南部の検丹里遺跡の方形住居跡に求めた見解と捉えられる。

小澤佳典は、玄界灘沿岸地域における突帯文期～弥生時代前期の集落資料を集成し、集落を構成する要素の動態と変遷の検討を行った。その中で、当該期の住居を「円形系住居」と「方形系住居」とに分け、後者の「方形系」に属する突帯文期の例として、曲り田例、江辻遺跡1地点1号例、福岡県諸岡遺跡F地区SC01例をあげた。江辻例は竪穴床面の中央に土坑があり、その外側に二つの柱穴を伴うことから半島系とみなし、いっぽう諸岡例のように主柱穴配置のはっきりしない方形住居は、縄文時代晩期の北部九州に事例が認められることから、在来系として評価したいとした。そして、後続する弥生時代前期前半～後半の「方形系住居」の多くは主柱穴が不明確であるのに対して、曲り田住居群は四本の主柱穴をもつ例も含まれることから、「特殊な事例としてとらえた方がよいかもしれない」としている（小澤，2006）。

筆者は、水稻農耕開始期の渡来人をめぐる諸問題を整理する中で、曲り田住居の平面形態が方形であることをみて、半島南部南江流域の松菊里型方形住居に求められる可能性を示唆したことがある（端野，2008a）。また、半島南部の松菊里型住居についての検討結果をふまえて、北部九州の松菊里系住居のルーツを論じたときにも、やはり曲り田住居群の系譜が半島南部に求められる可能性を考慮する必要性を説いた（端野，2008b）。その後、筆者は、計測値を用いて曲り田例と縄文時代晩期、半島南部それぞれの住居跡例との間の類似度を比較した。しかし、その結果は、縄文系の方形住居に系譜を求める見解の蓋然性が最も高いというものであった（端野，2009）。

以上、曲り田住居群の系譜に関する見解を概観したが、これらは以下のように整理される。

①縄文時代後晩期以来の方形住居に系譜を求める見解（小澤，2006；端野，2009）

②半島南部の無文土器文化に属する住居に系譜を求める見解

(a) 半島東南部の検丹里方形住居に系譜を求める見解（高倉，2001）

(b) 南江流域の松菊里型方形住居に系譜を求める見解（端野，2008a）

③特殊な事例とみなす見解（小澤，2006）

小澤（2006）は、③にもあるように系譜の判別に迷っているようであるが、石崎曲り田遺跡にも主柱穴配置のはっきりしない方形住居が多く存在するため、諸岡遺跡例の場合と同様の理由で、在来系として評価しているものと捉えられ、①にも分類しておいた。なお松本（2000）は、住居跡同士の切り合いをみて、縄文時代後晩期からの連続性を主張する見解であるが、住居の系譜自体には言及がないため、上記の分類には入れていない。

さて、このように各見解の間で違いが生じた理由は何であろうか。③を除いて全ての見解に共通するのは、平面形態が方形であるという事実のみにもとづいて、住居の系譜を判別しているという点である。これは比較対象とすべき縄文時代晩期に属する住居跡や突帯文期（夜臼Ⅰ～Ⅱa式期）併行期に属する半島南部の住居跡の資料蓄積が不十分であったことや、石崎曲り田遺跡の住居跡自体が遺構間の切り合いが激しく、内部施設に関する情報が不鮮明であったことに起因しているものと思われる。その結果として、曲り田住居群の系譜については、十分な検討を経ずして、平面形態の共通性だけをみて、異なる見解がいくつか提出されることとなったと考えられる。

こんにち、半島南部にあたる韓国では開発に伴う緊急発掘が急増し、北部九州の突帯文期に併行する時期（無文土器時代中期）に属する住居跡の調査報告は、膨大な数に上っている。また九州においても、縄文時代晩期に属する住居跡の検出例が、以前から徐々にではあるが蓄積されつつある。このことから、単に「平面形態が方形」ということだけではなく、計測値を用いた詳細な検討が可能な状況となりつつある。したがって本稿では、竪穴の規模・形態、柱穴の配置状態、竪穴四隅の形状に関わる計測値を用いて、石崎曲り田遺跡の住居跡を縄文時代晩期の住居跡例、半島南部の住居跡例と比較することによって、その系譜を検討することとしたい。

Ⅱ 資料と方法

図5は、本稿の分析に用いた住居跡例が検出された遺跡の位置を示したものである。分析の対象としたのは、石崎曲り田遺跡1次調査で検出された突帯文期に属する方形住居跡30基（福岡県教委，1983）、福岡県所在の遺跡で検出された縄文時代晩期（黒川式期）に属する方形住居跡59基^{註1)}、韓国・蔚山広域市に所在する検丹里遺跡の方形住居跡92基（釜山大博，1995）^{註2)}、韓国・慶尚南道晋州市に所在する大坪里遺跡漁隠2地区の松菊里型方形住居跡45基（国立昌原文研，2001）である。松菊里型方形住居跡は半島南部に広く分布しているが、その中でも南江流域に位置する大坪里遺跡漁隠2地区を取り上げたのは、端野（2008b）において、半島南部の松菊里型住居と北部九州の松菊里系住居の双方を検討した結果、北部九州の松菊里系住居のルーツを半島の南江流域と金海地域とを合わせた地域である可能性が高いと考えられたこと、そして、とくに南江遺跡群の中でも当該遺跡では松菊里型方形住居跡が数多く検出されていることによる。なお、検丹里遺跡と大坪里漁隠2地区の住居跡は、半島南部における土器・石器などの物質文化の編年からみて、突帯文期におおむね併行する無文土器時代中期に属することは確実である。そのほか、比較資料として、福岡県所在の突帯文期（夜臼式期）に属する方形住居跡12基、慶尚南道大坪里遺跡玉房8地区の四つの支柱穴をもつ松菊里型方形住居跡（国立昌原文研，2003）、福岡県江辻遺跡1次調査の松菊里系方形住居（新宅，1996）も扱った。なお、各比較資料の事例については、図12～14を参照されたい。

分析に用いた計測位置は、図6の通りである。これらの計測位置から得られた値を用いて、竪穴の規模・形態、柱穴の配置状態、竪穴四隅の形状の三点について、曲り田例と各資料との比較を行った。竪穴の規模・形態は、竪穴の「長さ」と「幅」の値を用いて、散布図と各資料群の近似曲線を作成し、それを通じて検討を行った。柱穴の配置状態の検討には、「柱穴偏在率」の値を指標に用いた。「柱穴

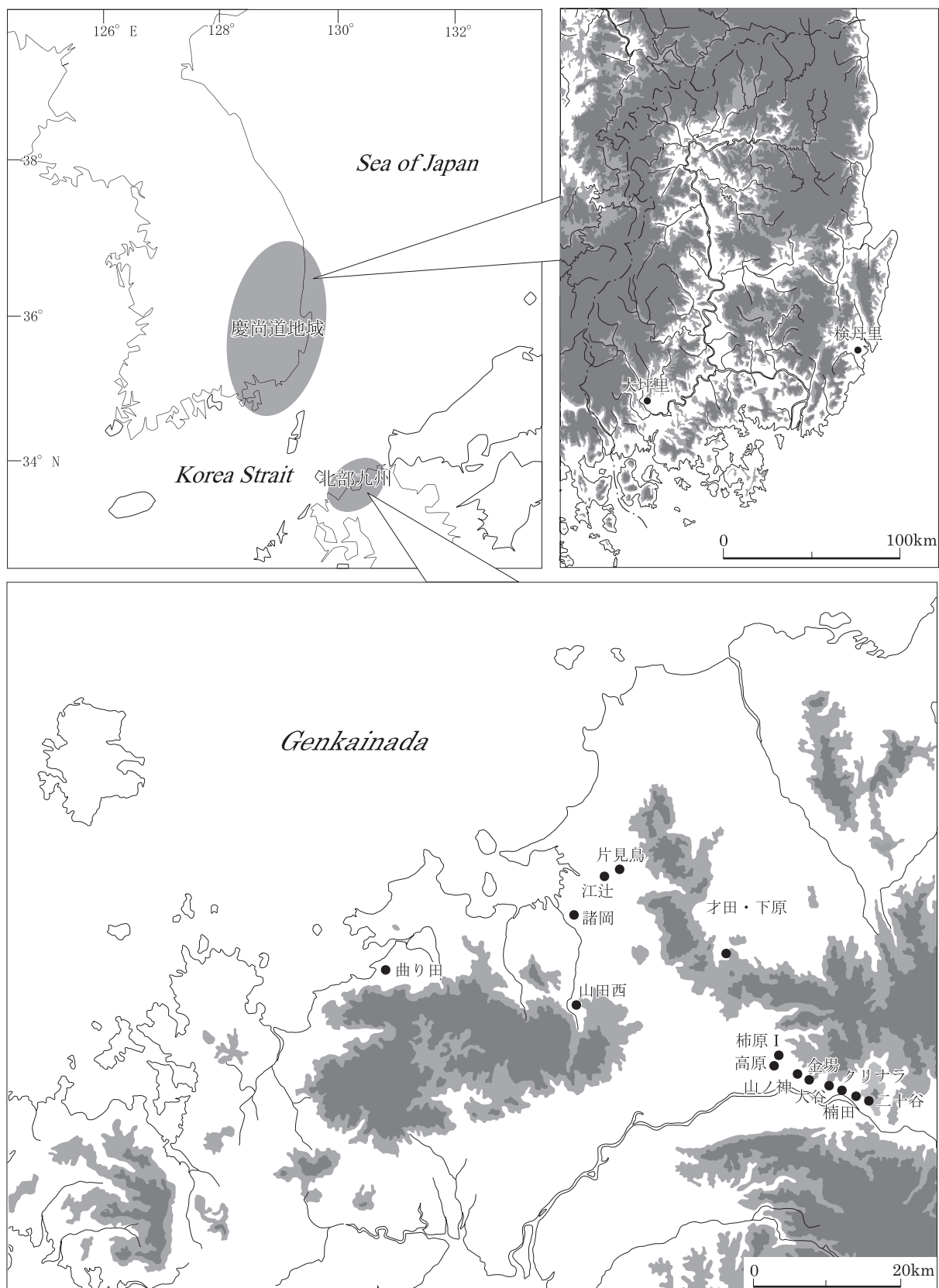


図5 分析に用いた遺跡の位置

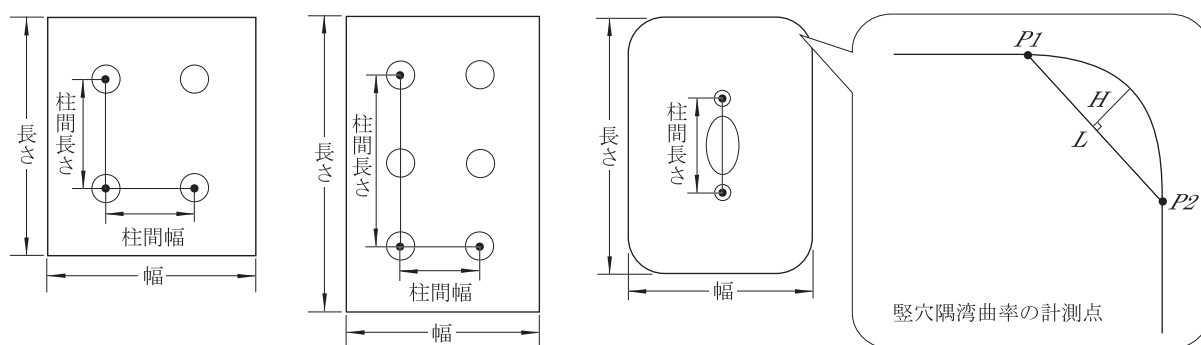


図6 住居跡の計測位置

偏在率」とは、「柱間長さ」を「長さ」で割った値である。これは値が大きいほど柱穴が壁寄りに位置し、小さいほど柱穴が竪穴の中央寄りに位置することを表す。また、竪穴四隅の形状の検討には、「最大隅湾曲率」の値を指標に用いた。その算出には、調査報告書掲載の個別遺構図を観察して、まず竪穴平面の一边から隅の頂点に伸びるまでの間に存在する変換点（P1）と、同じ隅を共有するもう一边から隅との間に存在する変換点（P2）を定めた。そして、この二点を結んだ直線の長さ（L）、およびこの直線から隅の頂点まで直角に延ばした直線の長さ（H）を計測した。この比（H/L）を各住居跡資料の竪穴四隅のそれぞれについて算出し、そのうち最も値の大きなものを「最大隅湾曲率」とした。これは値が大きいほど竪穴の四隅が角張っており、小さいほど丸みを帯びていることを表す。柱穴偏在率、最大隅湾曲率ともに、ヒストグラムを作成し、それを通じて検討を行った。なお、分析に用いた各住居跡資料の計測値などの詳細なデータについては、表1～4を参照されたい。

Ⅲ 分析結果

A 竪穴の規模・形態

ここでは、曲り田例と各比較資料の竪穴の規模・形態について、散布図を用いて比較を行う。散布図は、横軸に長さ（m）、縦軸に幅（m）をとって、資料ごとにプロットしたものである。なお、曲り田例には、住居跡間の切り合いが激しく、平面プランの一方のサイズしか把握できない例が多数存在するため、これらの欠損値の推定を行った。曲り田遺跡では、8・16・17・18・33号の合計5基が長さ、幅ともに把握可能な例であり、これらの長さ、幅の値を散布図にプロットし、その分布にもとづいて近似曲線（線形近似）の作成とその数式の算出を行った。そこで算出された数式（ $y=0.6223x+1.7125$ ）のxに、欠損例の既知の長さを代入することによって、幅（y）を算出し、散布図にプロットした。

図7は、曲り田例と縄文時代晩期（黒川式期）例の規模を示した散布図である。参考までに、曲り田例以外の突帯文期（夜臼式期）例もプロットしている。これをみると、黒川式期例の分布は幅2.3～2.9mの間に不連続が認められ、大小二つの群（大きい方をA群、小さい方をB群と呼称する）を形成し、右上がりの正の相関を示していることが分かる。このうちB群に属する住居跡群は規模が小さく、竪穴内部から炉跡や柱穴が確認されていないため、住居跡ではない可能性がある。したがって、

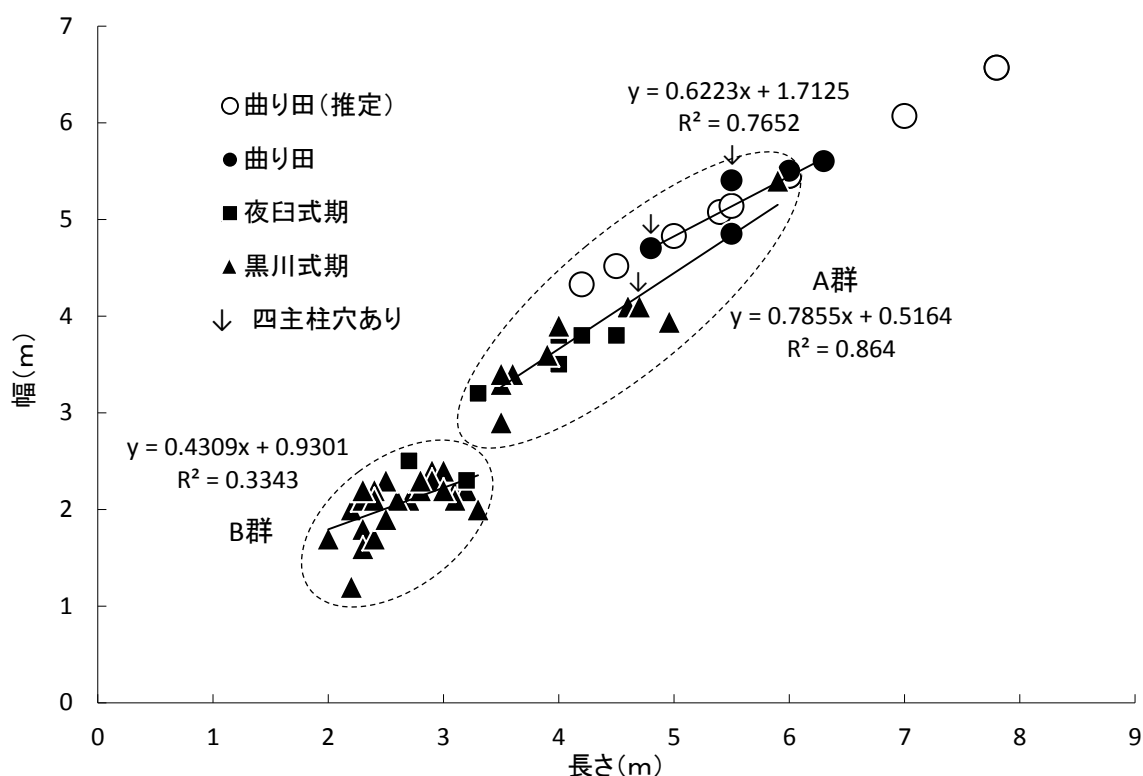


図7 曲り田例と黒川式期例・夜臼式期例の規模

竪穴四隅の形状については、これらの例を対象から除外した上で、検討を進めることとした。なお、このB群の範囲には夜臼式期の2例も含まれるが、これらも同様の理由で除外した。一方のA群は、曲り田例の中でも小規模な例と近接し、そのうち最大の規模である金場遺跡1号例は曲り田例と近接し、かつそれらの近似曲線上に乗って分布している。この群についても、近似曲線（線形近似）の作成と数式の算出を行ったが、その近似曲線（ $y=0.7855x+0.5164$ ）の傾きは、曲り田例のそれと比べてやや急であり、長さの値が大きくなるにつれ、曲り田例の分布に近づくことが分かる。なお、曲り田例以外の夜臼式期例は、黒川式期例のA群の分布範囲に含まれ、かつその近似曲線に近接して分布している。ちなみに、黒川式期例のB群についても、近似曲線を作成したが、その傾き（ $y=0.4309x+0.9301$ ）はA群のそれに比べ緩く、より長方形傾向の強い群であることを示している。

図8は、曲り田例と検丹里例の規模を示した散布図である。これをみると、検丹里例の分布は、やや右上がりの正の相関を示し、大きな一群を形成していることが分かる。その分布は、曲り田例のそれとは大きく傾向を異にしており、分布範囲の重複はない。この群の近似曲線（ $y=0.3127x+1.8666$ ）の傾きは、曲り田例のそれと比べて緩い。これは検丹里例の平面形態がより長方形傾向の強いことを示している。

図9は、曲り田例と漁隠2地区例の規模を示した散布図である。参考までに、玉房8地区1号例、江辻遺跡1地点1号例もプロットしている。これをみると、漁隠2地区例の分布は、右上がりの正の相関を示す大きな群（a群）と、それから外れて下に位置する無相関の小さな群（b群）の二つが存在することが分かる。前者は平面形態が正方形に近い例からなる群で、後者は細長い例からなる群と

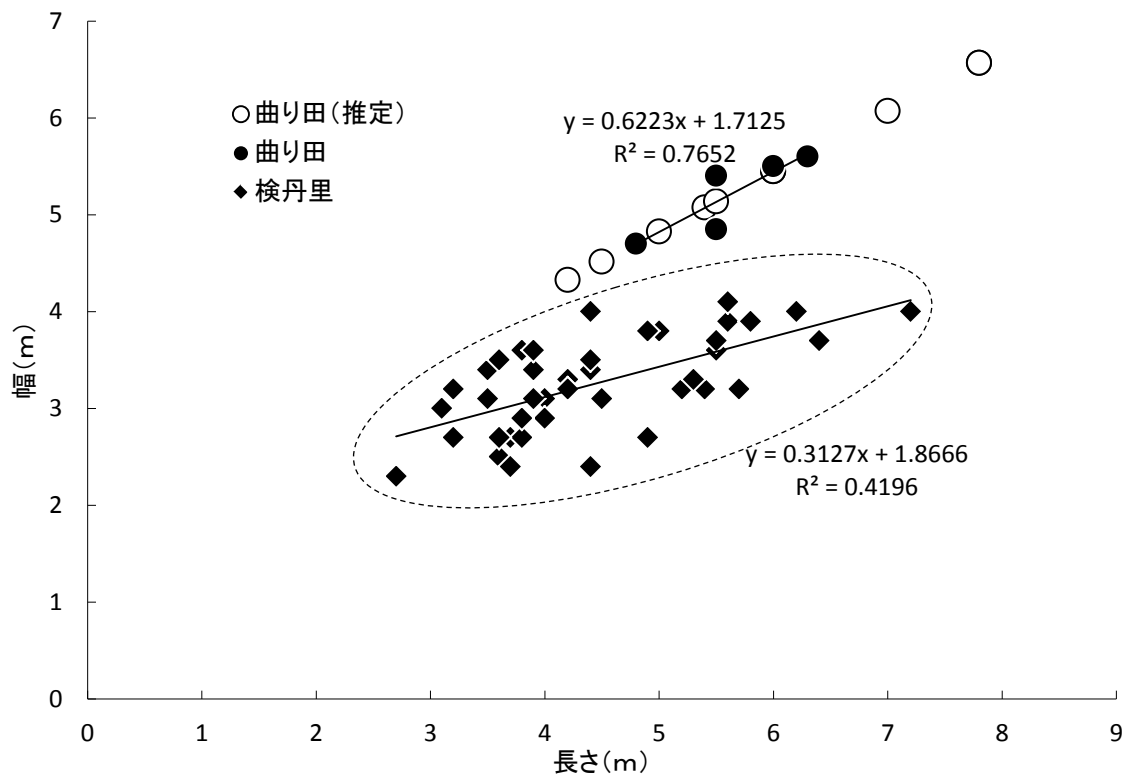


図8 曲り田例と検丹里例の規模

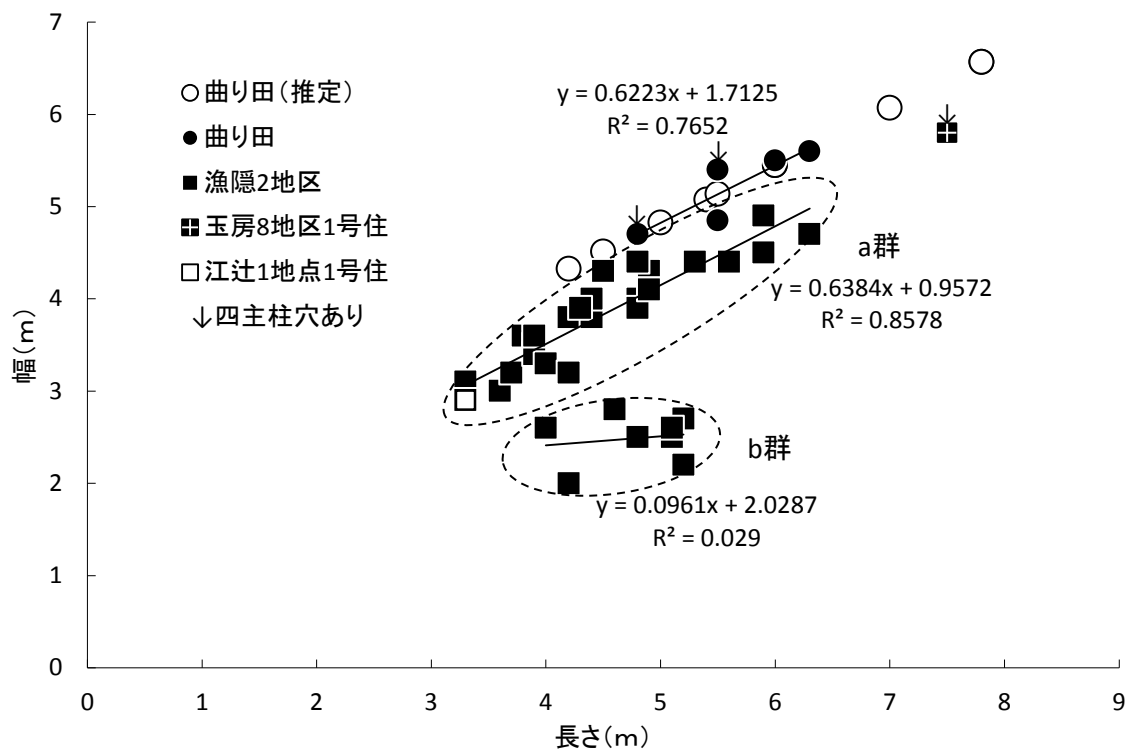


図9 曲り田例と大坪里例の規模

いうことになる。このうち、a 群の分布範囲は、曲り田例の小規模な例と近接している。この群の近似曲線 ($y=0.6384x+0.9572$) は、曲り田例のその下側に位置しつつ、それとほぼ併行している。これは、この群に属する例の平面形態が曲り田例に比べ、やや長方形傾向にあることを示している。四つの支柱穴をもち、大型の玉房 8 地区 1 号例がこの群の近似曲線の延長線上にちょうど位置することは、この群全体の傾向とも矛盾しない。なお、江辻遺跡 1 地点 1 号例は、漁隠 2 地区例の a 群の分布範囲に含まれている。

B 柱穴の配置状態

次に、曲り田例と各資料との間における柱穴の配置状態の比較を行う。各資料間の比較にあたっては、縦軸に頻度、横軸に柱穴偏在率の階級（一区間 0.05）をとるヒストグラムを用いた。対象資料のうち、分析に最低限必要なサンプル数を 10 例とみた場合、結果として十分なサンプル数が得られたのは、検丹里例のみであった。ここで問題としている曲り田例で、柱穴偏在率が算出可能であったのは 5 例のみであり、統計的な分布傾向の検討に耐え得るものではないので、その分布幅をみて、他の住居跡例との比較を行うこととした。比較資料の黒川式期例で、柱穴偏在率が算出可能であったのは、高原遺跡 60 号例の 1 例のみであったが、今後の資料の増加に期待しつつ、現時点の資料での結果を示しておくこともあながち無意味とは思えないと考え、分析対象に含めておいた。大坪里遺跡のうち、漁隠 2 地区例では四つ以上の支柱穴をもつ例が確認されていないことから、代わりに中央土坑に伴う二つの柱穴の間の距離を用いて、柱穴偏在率を算出して分析の対象とした。また、大坪里遺跡内での四つの支柱穴をもつものとして、玉房 8 地区 1 号例も含めた。

図 10 は、曲り田例と各比較資料それぞれの柱穴偏在率のヒストグラムである。まず、曲り田例のヒストグラムをみると、0.45～0.55 区間と 0.65～0.7 区間とに分布し、そのうち 0.5～0.55 区間に分布が集まっていることが分かる。これを念頭において、次に各比較資料のヒストグラムをみてみよう。黒川式期に属する高原遺跡 60 号例は、0.6～0.65 区間に分布する。これは、曲り田例の分布範囲である 0.5～0.7 区間の幅の中に収まる。検丹里例は、0.4～0.95 の幅に分布し、0.65～0.75 区間に分布のピークをもつ。最頻値は 0.7 である。分布の範囲をみると、曲り田例と重複しているものの、分布のピークはより値の大きい方に偏っている。これは検丹里例の支柱穴が、より壁際近くに配置される傾向が強い住居跡群であることを示している。

ところで、比較資料の一つとしてあげた漁隠 2 地区では、曲り田遺跡でみられるような四つの支柱穴をもつ例が確認されていない。これは、この遺跡に限ったことではなく四つの支柱をもつ構造があまり発達しないという南江流域全体の傾向に通じる現象である（端野，2008b）。曲り田例とは明らかに異なり、漁隠 2 地区例では、松菊里型住居に特徴的な中央土坑に伴う二つの柱穴に本来存在したはずの柱が支柱として上屋構造を支えたものと考えられる。ただ念のため、上屋構造を支える支柱の配置の傾向性についての検討として、この例に限っては、二つの柱穴間の距離を用いて柱穴偏在率を算出し、それと曲り田例との比較を行う。すると漁隠 2 地区例は、0.1～0.45 区間に分布し、0.25～0.3 区間に分布のピークをもつことが分かる。最頻値は 0.275 である。曲り田例との分布範囲の重複はなく、支柱が中央よりに配置される傾向が強い住居跡群であることを示している。参考までに、南江流

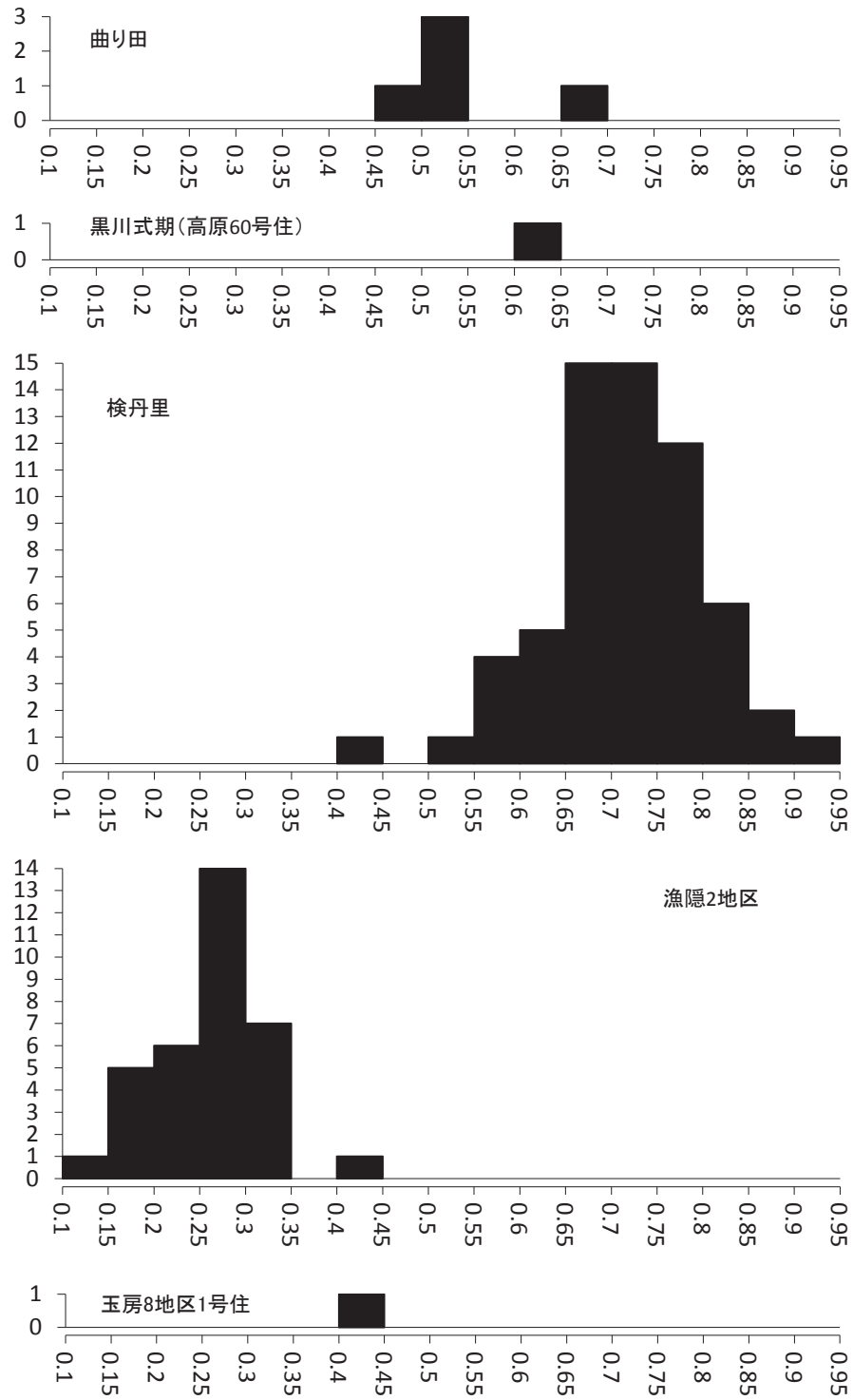


図 10 柱穴偏在率のヒストグラム

域に位置する遺跡の中では稀な四支柱穴をもつ方形松菊里型住居跡の例として、玉房8地区1号例の柱穴偏在率もグラフに示している。これは0.4～0.45区間に分布しており、漁隠2地区例の分布範囲に収まり、かつその範囲の中で最も大きな階級に属している。これは、この四支柱をもつ住居構造が松菊里型住居に特徴的な二支柱構造から派生したものであることを物語っている。当然のことながら、この例は曲り田例の分布範囲から外れている。

C 竪穴四隅の形状

最後に、曲り田例と各資料との間における竪穴四隅の形状の比較を行う。各資料間の竪穴四隅の形状の比較にあたっては、縦軸に頻度、横軸に最大隅湾曲率の階級（一区間0.05）をとるヒストグラムを用いた。比較資料の黒川式期例と漁隠2地区例については、住居規模を検討した結果、二つの群に分かれたが、そのうち曲り田例により近い群（黒川式期A群、漁隠2地区a群）に属する例を対象としてヒストグラムを作成した。柱穴偏在率の検討と同様に、分析に最低限必要なサンプル数を10例とみた場合、曲り田例と比較資料である黒川式期例、検丹里例、漁隠2地区例のすべてがこの条件を満たしていた。したがって、度数分布のピークと最頻値によって、曲り田例と各比較資料との間における類似度の評価を行うこととする。なお、分析に必要なサンプル数を満たしているとはいえないが、夜臼式期例も参考までに分析対象に加えておいた。

図11は、曲り田例と各比較資料それぞれの最大隅湾曲率のヒストグラムである。まず曲り田例をみると、0.2～0.55区間に分布し、そのうち0.35～0.4区間に分布のピークをもつことが分かる。最頻値は0.375である。これを念頭において、次に各比較資料のヒストグラムをみてみよう。黒川式期例は、0.3～0.6区間に分布し、0.4～0.45区間にピークがある。曲り田例に比べると、分布範囲で重複するところが多いものの、分布のピークはやや大きい方に偏っている。すなわち、曲り田例に比べ、平面形態の四隅がやや角張った傾向があるといえる。参考としてあげた夜臼式期例は、0.35～0.45区間の間に分布し、そのうち0.35～0.4区間に分布が集中している。これはサンプル数が少なく信頼性は低いものの、曲り田例のヒストグラムからうかがえる傾向と一致している。検丹里例は、0.2～0.6区間に分布し、0.35～0.4区間に分布のピークをもつ。最頻値は0.375で、曲り田例のそれと同じである。漁隠2地区例は、0.1～0.5区間にわたって広く分布し、0.3～0.35区間に最も大きな分布のピークをもつ。最頻値は0.325で、曲り田例に比べ、平面形態の隅がやや丸みを帯びる傾向があるといえる。また、0.15～0.25区間にも小さなピークがある。これは、0.3～0.35区間にピークをもつ一群とは別に、さらに角が丸みを帯びて円形に近い平面形態の一群が形成されていることを示している。

IV 考 察

前章では、曲り田例と黒川式期例、検丹里例、漁隠2地区例の三つの住居跡資料とを竪穴の規模・形態、柱穴の配置状態、竪穴四隅の形状の三点において、比較を行った。また参考として、夜臼式期例、江辻1地点1号例、玉房8地区1号例を取り上げ、それらとの比較も行った。その結果をふまえ

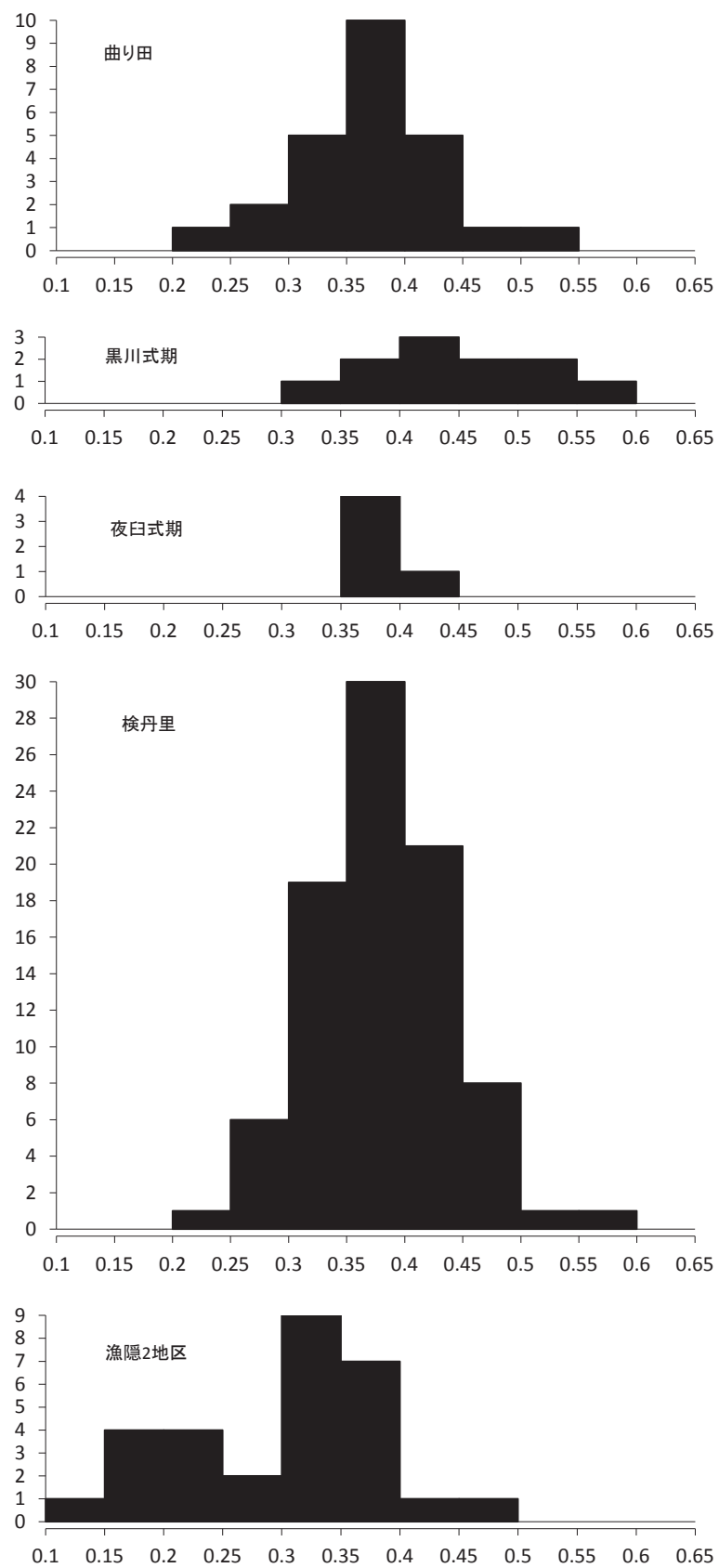


図 11 最大隅湾曲率のヒストグラム

ると、以下の諸点が指摘できる。

- ・ 堅穴規模は、黒川式期例の値が曲り田例のそれと最も近似している。それに次いで漁隠 2 地区例が類似するが、曲り田例に比べ、平面形態がやや長方形傾向にある。検丹里例は曲り田例とは全く傾向を異にしており、平面形態がより長方形傾向の強い住居跡群である。
- ・ 柱穴の配置状態は、黒川式期例が曲り田例の範疇に収まる。検丹里例と漁隠 2 地区例は、曲り田例に比べると、前者は壁際に柱を配置する傾向が強く、後者は中央に柱を配置する傾向が強い。
- ・ 堅穴四隅の形状は、検丹里例が曲り田例のそれと最も類似している。黒川式期例と漁隠 2 地区例は、曲り田例に比べると、前者は平面形態がやや角張った傾向にあり、後者はやや丸みを帯びた傾向にある。
- ・ 曲り田例以外の夜臼式期例は、堅穴の規模・形態、柱穴の配置状態の二点において、黒川式期例と類似するか、その範疇に収まる。
- ・ 江辻遺跡 1 地点 1 号例の堅穴規模は、漁隠 2 地区例の範疇に収まる。

さて、以上の諸点をふまえ、曲り田住居群の系譜について考えてみよう。まず、縄文時代後晩期以来の方形住居に系譜を求める見解（小澤，2006；端野，2009）について検討しよう。本稿の分析では、堅穴の規模・形態と柱穴の配置状態の二点において、この見解に肯定的な結果が得られた。堅穴四隅の形状についても、黒川式期例は曲り田例に比べ、やや角張った傾向にあることが分かったが、これは実際の住居跡の調査精度を考慮するならば、明確に隅丸化傾向が把握されない限り、この見解にとってそれほど否定的な材料とはならないであろう。

次に、半島南部の検丹里方形住居に系譜を求める見解（高倉，2001）はどうであろうか。検丹里例は、堅穴四隅の形状こそ、曲り田例と類似しているものの、堅穴の規模・形態と柱穴の配置状態の二点では傾向を異にしていた。すなわち、曲り田例に比べ、長方形傾向が強く、小型であり、支柱穴がより壁際に配置される傾向が強い。こうした堅穴の規模・形態、柱穴の配置状態の相違は、この見解に対する否定的な材料といえる。

最後に、半島南部の松菊里型方形住居に系譜を求める見解（端野，2008a）についてみてみよう。松菊里型方形住居跡として漁隠 2 地区例を代表させたが、堅穴規模・形態の傾向は曲り田例のそれと近似する部分もあるものの、やや長方形傾向にあるという差異を見出せた。また、柱穴の配置状態は中央土坑に寄った傾向を示し、曲り田例の四支柱穴の配置のあり方とは全く異なっていた。参考までに比較資料に加えた玉房 8 地区 1 号例は、松菊里型方形住居跡で四支柱穴をもつ例であるが、曲り田例の四支柱穴のあり方とは異なり、堅穴中央に寄ったものであった。また、堅穴四隅の形状は、曲り田例よりも、やや丸みを帯びた傾向にあることが看取された。

以上の議論をふまえると、まず検丹里方形住居に系譜を求める見解は可能性が低いものとみなし得る。そして、曲り田例の内部施設が不鮮明であることを考慮しても、松菊里型方形住居に系譜を求める見解よりは、縄文時代後晩期の方形住居に系譜を求める見解の方がより蓋然性が高いといえる。

最後に蛇足ではあるが、端野（2008b）の内容の一部について、安在皓（2009）から批判が行われているので、それに対しての反論を述べておきたい。筆者は、梨琴洞遺跡でみられる、中央土坑の周りに二つの柱穴のみならず複数の柱穴が検出された松菊里型住居跡を、中央土坑に伴う二本の柱を

数回にわたって立て直した結果とみて、これを半島南部の松菊里型住居の一つの類型とはみなさなかった。そして、北部九州の弥生前期末に定型化する六つ以上の主柱穴をもつ類型（小澤，2006）^{註3)}とは、柱穴配置の規則性が弱く、柱穴の位置が中央土坑近くに寄っている点で区別され、多くの主柱をもつ松菊里型住居は半島南部の南江流域や金海地域では定着せず、北部九州で独自に変容したものとみなした（端野，2008b）。これに対して、安在皓は、慶尚南道梨琴洞遺跡の住居跡を分類する中で、中央土坑の周りに松菊里型住居に特徴的な二つの柱穴以外に複数の柱穴をもつ例を「梨琴洞型」として型式の設定を行い、これを出土遺物からみて遺跡の中で最も遅い時期に属するものであり、列島の「発展松菊里型住居」（中間，1987）とは差違がみられても、その祖形であるか、あるいは関係のあるものとみている（安在皓，2009）。しかし、このような中央土坑の周りに複数の柱穴をもつ例を独立した一つの型式としてみなすのは、やはり妥当ではないと考える。というのも、梨琴洞遺跡の住居跡で、安在皓が「梨琴洞型」や「不整型」とするものには、柱穴間で切り合っている事例がいくつかあったり、柱穴の多くが中央土坑を挟んで二つの柱穴が一对をなす対称配置をとったりしており、これは二本の柱を数回にわたって立て直した結果とみる筆者の見解に対して有利な証拠といえるからである。また、「梨琴洞型」とする例から遺跡の中で比較的新しい時期の遺物が出土していることも、この住居が数回にわたって柱の建て直しが行われながら、長期間にわたって遅い時期まで使用されたということを傍証するものといえる。

お わ り に

以上、石崎曲り田遺跡の住居群の系譜に関する検討を行った。その結果、縄文時代後晩期の方形住居に系譜を求める見解の蓋然性が最も高いという結論が得られた。久しく異なる見解に分かれていた曲り田住居群の系譜について、縄文時代晩期と半島南部双方の資料との比較にもとづいて、はじめて具体的な検討を試みた点に本稿の意義をおきたい。ただし、本稿で検討の対象とした黒川式期の住居跡はいまだ資料の蓄積が十分とはいえず、住居跡の調査報告がさらに蓄積次第、本稿で得られた結果の妥当性を再検討する必要がある。また、準備不足のため、半島南部例については、代表的な遺跡例をピックアップして比較資料として用いた。これでも住居タイプごとの傾向性はおおむね把握できたと考えるが、今後、半島南部例の悉皆的な検討を行う必要があることも付け加えておきたい。

謝 辞

本稿は、2012年3月、九州大学大学院比較社会文化学府に提出した博士論文の一部を骨子とするものである。博士論文の審査にあたっては、田中良之先生をはじめ、岩永省三・溝口孝司・宮本一夫・武末純一の諸先生から、多くのご指導・ご教示を賜った。また本稿の内容は、2009年4月に東アジア考古学会第85回例会で発表したものに若干の修正と新たな分析を加えたものでもある。席上にて、武末先生をはじめ、宮地聡一郎、田尻義了、齋藤瑞穂、李東冠、金想民の諸氏から有益なご教示をいただいた。また、裴徳煥先生からは、2010年4月～10月の九州大学大学院比較社会文化研究院にご滞在中に、無文土器時代の集落・住居に関する最新の研究成果や資料の蓄積状況について、多くのご

教示をいただいた。さらに、ずいぶん時間をさかのぼるが、2001 年 12 月の九州史学会考古学部会で研究発表を行った後の飲み会にて、高倉洋彰先生から「曲り田遺跡の住居跡の系譜についてはどう考えるのか？」というお問い合わせをいただいたことも、本稿を作成する大きな契機となった。なお本稿の図面のトレースは、岩橋由季氏のご協力を得た。以上の方々に、感謝申し上げる次第である。（本稿は JSPS 科研費 09J04282 の助成を受けたものである。）

註

1. 九州縄文研究会（2008）によって、資料の収集を行った。夜臼式期例についてもこれによった。
2. 検丹里遺跡の所在する蔚山地域では、近年、平面形態が方形・長方形で炉跡と周壁溝をもち、竪穴外に排水溝を伴う点を特徴とする「蔚山式住居跡」が多数、検出されている（金賢植，2005）。検丹里遺跡の住居跡例は、排水溝が検出されていないものの、平面形態や炉や柱穴などの内部施設のあり方からみて、この範疇に含めてよい。
3. 小澤佳憲は、中間研志（1987）が「発展松菊里型住居」と呼んだ中央土坑両端の二つの支柱穴以外に四つ以上の支柱穴をもつ例を、四つの支柱穴をもつものと六つ以上の支柱穴をもつものに区別している。中間の「発展松菊里型住居」は、この六つ以上の支柱穴をもつ類型を含むものであっても、同義ではないことは注意しておく必要がある。

文 献

（日本語文）五十音順

- 小澤佳憲，2006．玄界灘沿岸地域の弥生時代前半期集落の様相－住居形態の変遷を中心に－．埋蔵文化財研究会・第 55 回埋蔵文化財研究集会（編），弥生集落の成立と展開．埋蔵文化財研究会・第 55 回埋蔵文化財研究集会，福岡．pp. 1-26.
- 九州縄文研究会，2008．九州の縄文住居Ⅱ．九州縄文研究会，熊本．
- 高倉洋彰，2001．交流する弥生人．吉川弘文館，東京．
- 中間研志，1987．松菊里型住居－我国稲作農耕受容期における竪穴住居の研究－．岡崎敬先生退官記念事業会（編），東アジアの考古と歴史（岡崎敬先生退官記念論集）中．同朋舎，京都．pp. 593-634.
- 橋口達也，1985．日本における稲作の開始と発展．橋口達也（編），石崎曲り田遺跡．福岡県教育委員会，福岡．pp. 5-103.
- 端野晋平，2008a．松菊里型住居の伝播とその背景．九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集刊行会（編），九州と東アジアの考古学－九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集－．九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集刊行会，福岡．pp. 45-72.
- 端野晋平，2008b．玄界灘沿岸地域における渡来人とその文化－朝鮮半島との比較を通じて－．考古学ジャーナル 568，13-18.
- 端野晋平，2009．曲り田遺跡方形住居群の系譜について．東アジア考古学会第 85 回例会．東アジア考古学会，福岡．

- 福岡県教育委員会, 1983. 石崎曲り田遺跡Ⅰ. 福岡県教育委員会, 福岡.
- 福岡市教育委員会, 1980. 千里シビナ遺跡調査概報. 福岡市教育委員会, 福岡.
- 福岡市教育委員会, 1995. 環境整備遺構確認調査 板付遺跡. 福岡市教育委員会, 福岡.
- 福岡市教育委員会, 2001. 有田・小田部 第36集. 福岡市教育委員会, 福岡.
- 松本直子, 2000. 認知考古学の理論と実践的研究—縄文から弥生への社会・文化変化のプロセス—. 九州大学出版会, 福岡.
- 山崎純男, 1980. 弥生文化成立期における土器の編年的研究. 鏡山猛先生古稀記念論文集刊行会(編), 古文化論攷(鏡山猛先生古稀記念). 鏡山猛先生古稀記念論文集刊行会, 太宰府.
- (韓国語文) カナダ順
- 金賢植, 2005. 蔚山式 住居址의 増築과 社会的意味. 嶺南考古学 36. 27-41.
- 安在皓, 2009. 青銅器時代 泗川 梨琴洞聚落의 変遷. 嶺南考古学 51. 5-33.

分析に用いた報告

(日本語文) 五十音順

- 新宅信久, 1996. パズルの一片—弥生時代早期の集落の様相—. 福岡考古 17, 9-20.
- 嘉穂町教育委員会, 2002. 才田・下原遺跡. 嘉穂町教育委員会, 嘉穂.
- 久山町教育委員会, 2006. 片見鳥遺跡. 久山町教育委員会, 糟屋.
- 那珂川町教育委員会, 1991. 山田西遺跡. 那珂川町教育委員会, 筑紫.
- 福岡県教育委員会, 1983. 石崎曲り田遺跡Ⅰ. 福岡県教育委員会, 福岡.
- 福岡県教育委員会, 1992. 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 22 朝倉郡朝倉町所在鎌塚・山ノ神・鎌塚西遺跡の調査. 福岡県教育委員会, 福岡.
- 福岡県教育委員会, 1994. 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 31 福岡県甘木市所在高原遺跡・口ノ坪遺跡. 福岡県教育委員会, 福岡.
- 福岡県教育委員会, 1995. 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 37 甘木市所在柿原Ⅰ縄文遺跡. 福岡県教育委員会, 福岡.
- 福岡県教育委員会, 1996. 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 41 朝倉郡杷木町所在大谷遺跡の調査甘木市所在柿原遺跡群の調査Ⅵ(L地区). 福岡県教育委員会, 福岡.
- 福岡県教育委員会, 1997. 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 43 朝倉郡杷木町所在クリナラ遺跡・若宮遺跡. 福岡県教育委員会, 福岡.
- 福岡県教育委員会, 1998. 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 49 朝倉群杷木町所在楠田遺跡・小覚原遺跡・二十谷遺跡・陣内遺跡・上野原遺跡. 福岡県教育委員会, 福岡.
- 福岡県教育委員会, 1999. 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 54 朝倉郡朝倉町所在金場遺跡. 福岡県教育委員会, 福岡.
- 福岡市教育委員会, 1980. 板付周辺遺跡調査報告書 6. 福岡市教育委員会, 福岡.
- (韓国語文) カナダ順
- 国立昌原文化財研究所, 2001. 晋州大坪里漁隠2地区先史遺跡Ⅰ. 国立昌原文化財研究所, 昌原.

国立昌原文化財研究所, 2003. 晋州大坪里玉房 8 地区先史遺跡. 国立昌原文化財研究所, 昌原.
釜山大学校博物館, 1995. 蔚山検丹里마울遺跡. 釜山大学校博物館, 釜山.

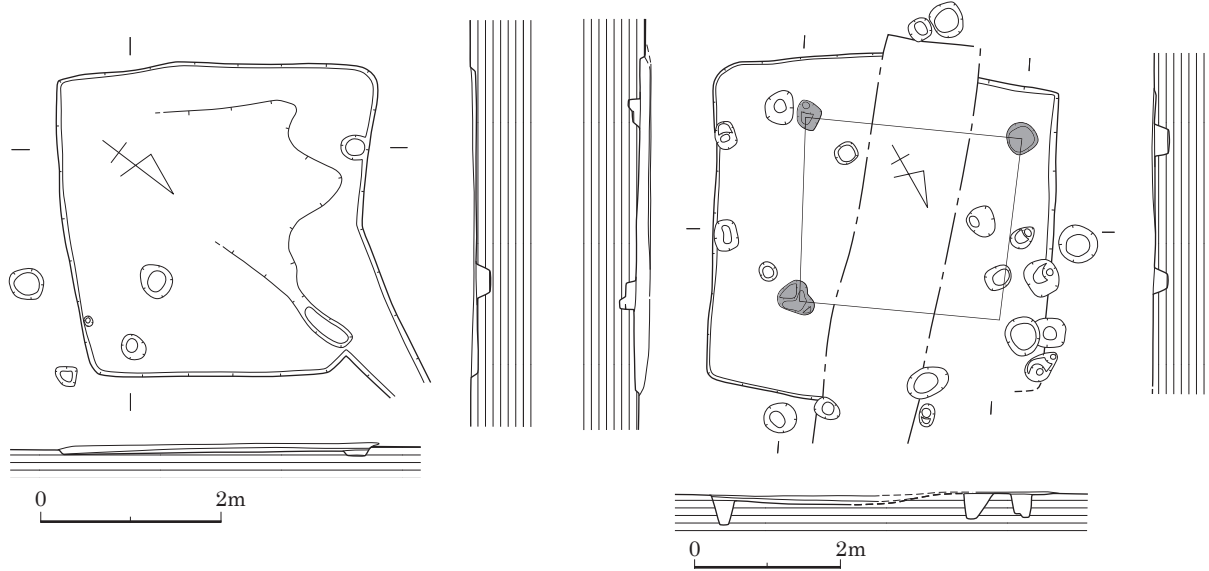
[補記]

本稿は 2011 年 1 月、別の雑誌に寄稿したが、諸般の事情により刊行されず未発表のままであった原稿を、その後の博士学位審査の結果をふまえて書き改めたものである。筆者が 2012 年 3 月に博士学位を取得した後、石崎曲り田遺跡の住居の系譜を取り上げた論考が宮本一夫と溝口孝司の二人によって発表されたので、ここで触れておく。弥生時代開始期の半島系墓制の受容を論じた宮本は、列島への情報の発信源を論じるなかで、石崎曲り田遺跡に松菊里系住居跡が存在するものとみた（宮本, 2012, p. 172）。また、列島での水稻農耕導入期から国家成立までの過程を論じた溝口は、北部九州の沿岸部に初めて出現した「大坪里タイプ」の松菊里系住居跡の例として、曲り田例をあげた（Mizoguchi, 2013, p. 82）。しかしながら、本稿での分析結果はこれらの見解を積極的に支持するものではないことを書き添えておきたい。

宮本一夫, 2012. 弥生移行期における墓制から見た北部九州の文化受容と地域間関係. 古文化談叢 67, 147-176.

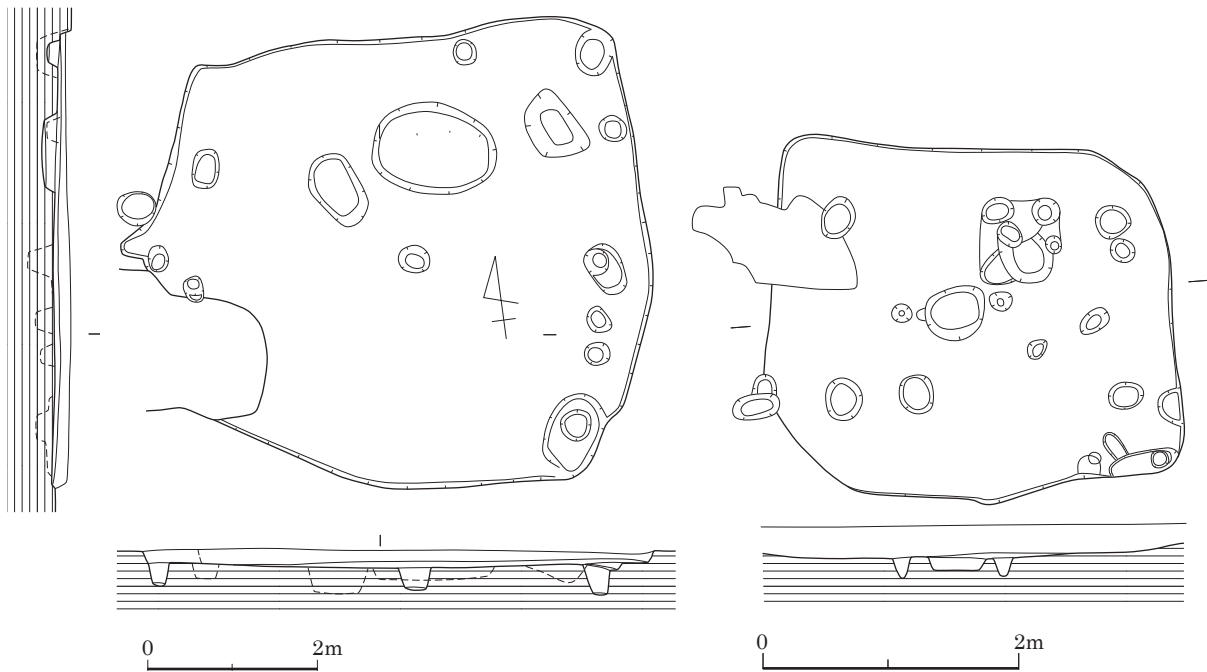
Mizoguchi, K., 2013. The Archaeology of Japan: from the earliest rice farming villages to the rise of the state. Cambridge University Press, New York.

(2014 年 12 月 12 日)



高原 56 号住

高原 60 号住



金場 13 号住

江辻 1 地点 1 号住

図 12 黒川式期・夜臼式期住居跡の諸例（縮尺不同）

（各報告書よりトレース・改変）

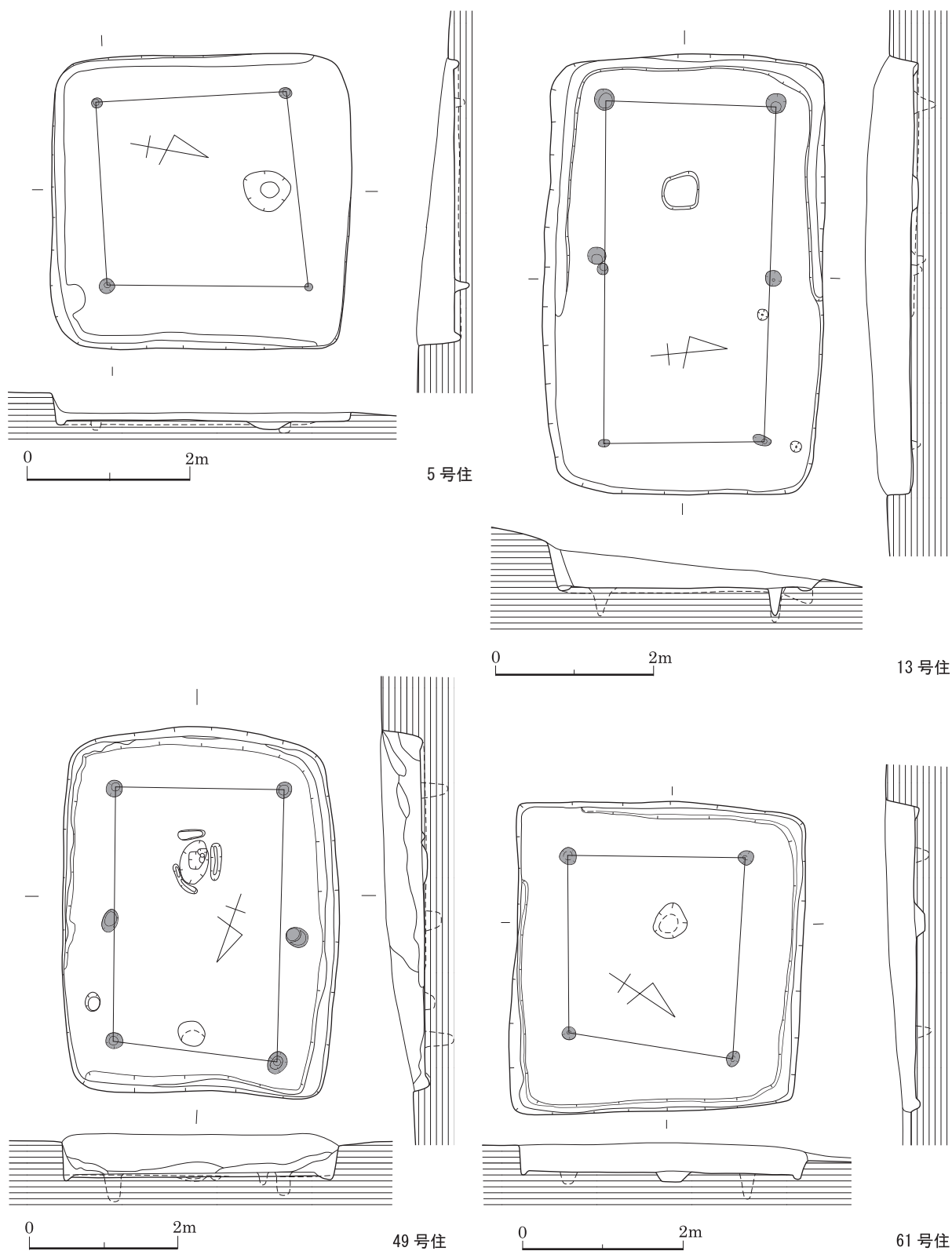


図13 検丹里遺跡住居跡の諸例（縮尺不同）

（釜山大博，1995よりトレース・改変）

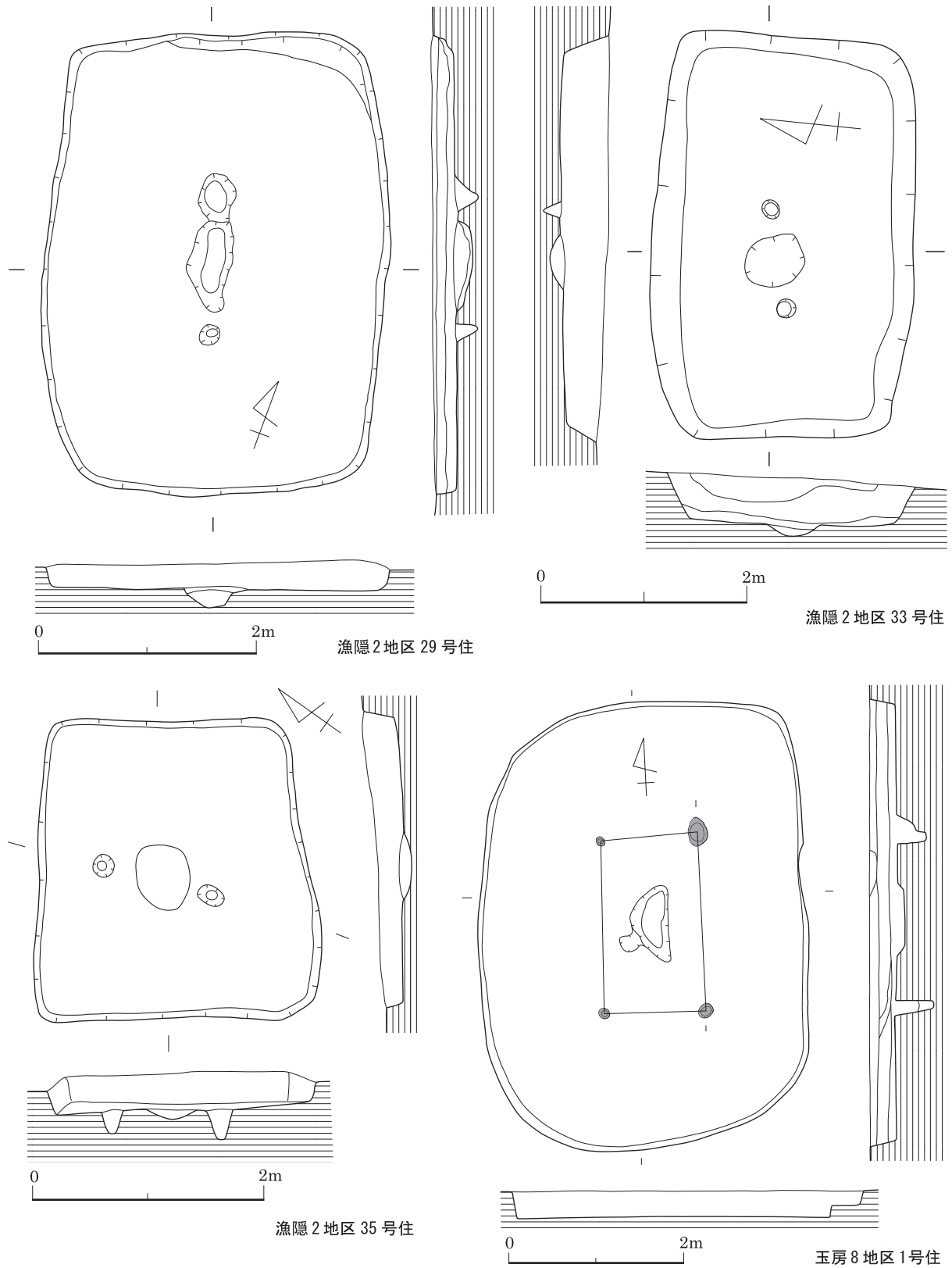


図14 大坪里遺跡住居跡の諸例（縮尺不同）
（国立昌原文研，2001・2003 よりトレース・改変）

表 1 石崎曲り田遺跡の住居跡データ

No.	遺構名	時期	平面形態	最大隅 湾曲率	長さ	幅	主柱 穴	柱間 長さ	柱間 幅	柱穴 偏在	備考
1	7号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.39	5.4	5.1	4?	2.55	?	0.47	
2	8号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.43	5.5	5.4	4	3	2.5	0.55	焼土・灰検出
3	11号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.35	7.8	6.6	4?	4	?	0.51	
4	12号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	—	?	?	?	?	?	—	
5	13号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.37	7.8	6.6	?	?	?	—	
6	14号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.29	6.0	5.4	?	?	?	—	
7	15号住居跡	夜臼式期	方形	0.44	6.0	5.4	?	?	?	—	
8	16号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.40	6.0	5.5	?	?	?	—	鉄片出土
9	17号住居跡	夜臼式期	方形	0.42	6.3	5.6	?	?	?	—	
10	18号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.37	4.8	4.7	4	2.5	2.4	0.52	
11	19号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.35	?	?	?	?	?	—	
12	20号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.38	4.5	4.5	?	?	?	—	未掘
13	21号住居跡	夜臼式期	方形	0.53	?	?	?	?	?	—	
14	22号住居跡	夜臼式期	?	—	?	?	?	?	?	—	未掘
15	23号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	—	?	?	?	?	?	—	
16	24号住居跡	夜臼式期	方形	0.29	?	?	?	?	?	—	
17	25号住居跡	夜臼式期	方形	0.34	?	?	?	?	?	—	
18	26号住居跡	夜臼式期	方形	0.47	7.0	6.1	?	?	?	—	
19	28号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.33	4.2	4.3	?	?	?	—	
20	29号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.37	?	?	?	?	?	—	
21	30号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.33	?	?	?	?	?	—	
22	32号住居跡	夜臼式期	方形	—	?	?	?	?	?	—	
23	33号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.43	5.5	4.9	?	?	?	—	
24	34号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	—	?	?	?	?	?	—	
25	36号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.38	5.5	5.1	?	?	?	—	
26	38号住居跡	夜臼式期	方形	0.42	?	?	?	?	?	—	
27	39号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.25	?	?	?	?	?	—	
28	40号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.37	?	?	?	?	?	—	
29	41号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.40	?	?	?	?	?	—	
30	42号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.38	5.0	4.8	4?	3.4	?	0.68	

■ 推定値

表2 黒川式期・夜臼式期の住居跡データ（その1）

No.	遺跡名	調査 次数	地区 名	所在地	遺構名	時期	平面形態	最大隅 湾曲率	長さ	幅	主柱 穴	柱間 長さ	柱間 幅	柱穴 偏在	壁際 柱穴	炉	備考
1	山田西	1次	-	筑紫郡那珂川町	1号住居跡	黒川式期	隅丸方形	0.32	3.8	?	?	?	?	-	?	?	
2	山田西	1次	-	筑紫郡那珂川町	2号住居跡	黒川式期	長方形	0.39	4.0	?	?	?	?	-	?	?	
3	山田西	1次	-	筑紫郡那珂川町	3号住居跡	黒川式期	楕円形	0.26	4.0	?	?	?	?	-	?	?	焼土検出
4	山田西	1次	-	筑紫郡那珂川町	4号住居跡	黒川式期	方形	0.34	4.9	?	?	?	?	-	?	?	
5	山田西	1次	-	筑紫郡那珂川町	5号住居跡	黒川式期	方形	0.56	3.5	3.4	?	?	?	-	?	?	
6	山田西	1次	-	筑紫郡那珂川町	6号住居跡	黒川式期	方形	0.43	2.3	2.2	?	?	?	-	?	?	
7	山田西	1次	-	筑紫郡那珂川町	8号住居跡	黒川式期	隅丸方形	0.28	2.9	?	?	?	?	-	?	?	
8	高原	-	-	朝倉市屋永	56号住居跡	黒川式期	方形	0.50	3.5	3.3	?	?	?	-	?	?	
9	高原	-	-	朝倉市屋永	60号住居跡	黒川式期	方形	0.41	4.7	4.1	4	3	2.5	0.64	?	?	
10	柿原Ⅰ	-	-	朝倉市屋永	1号住居跡	黒川式期	長方形	0.35	4.4+	3.0	?	?	?	-	?	?	
11	柿原Ⅰ	-	-	朝倉市屋永	2号住居跡	黒川式期	方形?	-	?	?	?	?	?	-	?	?	
12	柿原Ⅰ	-	-	朝倉市屋永	3号住居跡	黒川式期	方形?	-	?	?	?	?	?	-	?	?	
13	柿原Ⅰ	-	-	朝倉市屋永	4号住居跡	黒川式期	方形?	-	5.0	?	?	?	?	-	?	+	
14	山ノ神	-	-	朝倉市山田	1号竪穴	黒川式期	長方形	0.46	2.8	2.3	?	?	?	-	?	?	
15	山ノ神	-	-	朝倉市山田	2号竪穴	黒川式期	長方形	0.43	2.5	1.9	?	?	?	-	?	?	
16	金場	-	-	朝倉市山田	13号住居跡	黒川式期	不整形方形	0.41	5.9	5.4	?	?	?	-	11	-	
17	クリナラ	-	-	朝倉市杷木寒水	3号住居跡	黒川式期	方形	0.40	4.0	3.9	?	?	?	-	12	+	
18	クリナラ	-	-	朝倉市杷木寒水	4号住居跡	黒川式期	長方形	0.52	3.5	2.9	?	?	?	-	8	?	
19	クリナラ	-	-	朝倉市杷木寒水	5号住居跡	黒川式期	隅丸方形	0.43	4.6	4.1	?	?	?	-	8	+	
20	クリナラ	-	-	朝倉市杷木寒水	6号住居跡	黒川式期	不整形方形	0.32	4.0	3.9	?	?	?	-	9	?	
21	クリナラ	-	-	朝倉市杷木寒水	7号住居跡	黒川式期	方形?	0.37	3.6	2.3+	?	?	?	-	+	?	
22	クリナラ	-	-	朝倉市杷木寒水	8号住居跡	黒川式期	方形	0.50	3.6	3.4	?	?	?	-	+	+	
23	クリナラ	-	-	朝倉市杷木寒水	9号住居跡	黒川式期	方形	0.52	3.9	3.6	?	?	?	-	?	?	
24	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	1号住居跡	黒川式期	不整形方形	0.39	2.3+	1.5	?	?	?	-	?	?	
25	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	2号住居跡	黒川式期	長方形	0.44	2.9	2.3	?	?	?	-	?	?	
26	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	3号住居跡	黒川式期	不整形方形	0.36	2.4	1.7	?	?	?	-	?	?	
27	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	4号住居跡	黒川式期	方形	0.41	2.6	2.3+	?	?	?	-	?	?	
28	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	5号住居跡	黒川式期	長方形	0.45	3.1	2.1	?	?	?	-	?	?	
29	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	6号住居跡	黒川式期	正方形	0.39	2.3	2.2	?	?	?	-	?	?	
30	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	7号住居跡	黒川式期	長方形	0.42	2.8	2.2	?	?	?	-	?	+	
31	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	8号住居跡	黒川式期	不整形方形	0.46	2.4	2.1	?	?	?	-	?	?	
32	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	9号住居跡	黒川式期	長方形	0.40	3.0	2.2	?	?	?	-	?	?	
33	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	10号住居跡	黒川式期	長方形	0.39	2.8	2.2	?	?	?	-	?	?	
34	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	11号住居跡	黒川式期	長方形	0.41	3.1	2.2	?	?	?	-	?	?	
35	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	12号住居跡	黒川式期	長方形	0.43	2.7	2.1	?	?	?	-	+	+	
36	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	13号住居跡	黒川式期	不整形方形	0.47	2.7	2.1	?	?	?	-	+	?	
37	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	14号住居跡	黒川式期	方形	0.40	2.9	2.3+	?	?	?	-	?	?	
38	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	15号住居跡	黒川式期	方形	0.41	2.9	2.4	?	?	?	-	?	?	
39	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	16号住居跡	黒川式期	長方形	0.45	3.0	2.4	?	?	?	-	?	?	
40	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	17号住居跡	黒川式期	長方形	0.42	2.6	2.1	?	?	?	-	?	?	
41	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	18号住居跡	黒川式期	方形	0.44	2.5	2.3	?	?	?	-	?	+	
42	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	19号住居跡	黒川式期	長方形	0.30	2.2+	1.7	?	?	?	-	?	?	
43	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	20号住居跡	黒川式期	不整形方形	0.36	2.4	2.2	?	?	?	-	?	?	
44	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	21号住居跡	黒川式期	長方形	0.38	3.2	2.2	?	?	?	-	?	?	
45	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	22号住居跡	黒川式期	長方形	0.37	3.3	2.0	?	?	?	-	?	?	
46	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	23号住居跡	黒川式期	正方形	0.38	2.2	2.0	?	?	?	-	?	?	
47	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	24号住居跡	黒川式期	不整形方形	0.39	2.0	1.7	?	?	?	-	?	?	
48	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	25号住居跡	黒川式期	長方形	0.41	2.4+	2.3	?	?	?	-	?	?	
49	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	26号住居跡	黒川式期	長方形	0.43	1.5	1.4+	?	?	?	-	?	?	焼土検出

表2 黒川式期・夜臼式期の住居跡データ（その2）

No.	遺跡名	調査	地区名	所在地	遺構名	時期	平面形態	最大角 湾曲率	長さ	幅	主柱 穴	柱間 長さ	柱間 幅	柱穴 偏在	壁際 柱穴	炉	備考
50	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	27号住居跡	黒川式期	長方形	0.46	2.3	1.8	?	?	?	-	?	?	
51	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	28号住居跡	黒川式期	方形?	0.56	2.8	1.8+	?	?	?	-	?	?	
52	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	29号住居跡	黒川式期	不整形	-	2.3	2.1	?	?	?	-	?	?	
53	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	30号住居跡	黒川式期	正方形	0.43	3.0	?	?	?	?	-	?	?	
54	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	31号住居跡	黒川式期	不整形	0.47	2.2	1.2	?	?	?	-	?	?	
55	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	32号住居跡	黒川式期	正方形	0.44	2.0	1.7	?	?	?	-	?	?	
56	二十谷	-	-	朝倉市杷木林田	33号住居跡	黒川式期	不整形	0.61	2.3	1.6	?	?	?	-	?	?	
57	片見鳥	-	-	糟屋郡久山町	20号住居跡	黒川式期	方形	0.43	3.5	1.0+	?	?	?	-	?	?	
58	才田・下原	-	-	嘉麻市嘉穂才田	2号住居跡	黒川式期	方形	0.38	5.0	3.9	4?	?	?	-	?	?	
59	才田・下原	-	-	嘉麻市嘉穂才田	竪穴状遺構	黒川式期	方形	0.42	4.3+	3.4+	?	?	?	-	?	?	
60	諸岡	9次	G区	福岡市博多区	-	夜臼式期	方形	0.32	3.0	2.1+	?	?	?	-	7+	+	
61	江辻	-	1地点	糟屋郡粕屋町	1号住居跡	夜臼式期	隅丸方形	0.47	3.3	2.9	?	?	?	-	?	-	中央土坑・二柱穴(外)あり
62	大谷	-	-	朝倉市杷木若市	SX-1	夜臼式期	方形	0.44	2.7	2.5	?	?	?	-	?	?	
63	大谷	-	-	朝倉市杷木若市	SX-2	夜臼式期	長方形	0.47	3.2	2.3	?	?	?	-	?	?	
64	大谷	-	-	朝倉市杷木若市	SX-3・4	夜臼式期	方形	0.37	4.0	3.8	?	?	?	-	?	?	
65	楠田	-	-	朝倉市杷木林田	1号住居跡	夜臼式期	長方形	0.44	4.5	3.8	?	?	?	-	?	+	
66	楠田	-	-	朝倉市杷木林田	2号住居跡	夜臼式期	長方形	0.38	4+	3.5+	?	?	?	-	?	-	
67	楠田	-	-	朝倉市杷木林田	3号住居跡	夜臼式期	長方形	0.28	?	?	?	?	?	-	?	-	削平著しい
68	楠田	-	-	朝倉市杷木林田	4号住居跡	夜臼式期	長方形	0.39	4.2	3.8	?	?	?	-	?	-	
69	楠田	-	-	朝倉市杷木林田	1号竪穴	夜臼式期	方形	0.35	3.8	?	?	?	?	-	?	-	
70	楠田	-	-	朝倉市杷木林田	2号竪穴	夜臼式期	方形	0.38	3.1	?	?	?	?	-	?	-	
71	楠田	-	-	朝倉市杷木林田	3号竪穴	夜臼式期	方形	0.47	3.3	3.2	?	?	?	-	?	-	

表3 検丹里遺跡の住居跡データ（その1）

No.	遺構名	平面形態	最大角 湾曲率	長さ	幅	炉跡	主柱 穴	柱間 長さ	柱間 幅	柱穴 偏在	中央 土坑	二柱 穴	補助 柱穴	周溝	周溝 柱穴	備考
1	1号住居跡	隅丸長方形	0.43	6.2	4.0	+	6	4.4	2.5	0.72	-	-	-	+	-	
2	2号住居跡	隅丸長方形?	0.40	4.2	3.8+	?	+	?	?	-	-	-	-	+	-	焼土検出
3	3号住居跡	隅丸長方形	0.30	3.7	2.7	-	4	3.1	1.9	0.83	-	-	-	+	-	
4	4号住居跡	隅丸長方形	0.38	4.9+	3.8	?	6?	3.3	3.1	-	-	-	-	?	?	柱穴不確実
5	5号住居跡	隅丸方形	0.34	3.8	3.6	+	4	2.5	2.5	0.66	-	-	-	+	-	
6	6号住居跡	隅丸長方形?	0.39	3.9	1.4+	?	2+	2.6	?	0.68	?	?	-	?	-	
7	8号住居跡	隅丸長方形	0.45	3.8	2.7	+	1+	?	?	-	-	-	-	-	-	
8	9号住居跡	隅丸長方形	0.45	5.5	3.6	-	6	4.3	2.4	0.79	-	-	-	+	-	
9	10号住居跡	隅丸長方形?	0.27	5.1+	1+	?	?	?	?	-	?	?	-	?	?	
10	11号住居跡	隅丸長方形	0.35	4.1	3+	+	?	?	?	-	-	-	-	+	-	
11	12号住居跡	隅丸方形?	0.42	3.4	1.9+	?	2+	2.7	?	0.79	?	?	-	+	-	
12	13号住居跡	隅丸長方形	0.40	5.7	3.2	+	6	4.4	2.2	0.77	-	-	-	+	-	
13	14号住居跡	隅丸方形?	0.35	4.4	3.4	+	4?	2.9	2.5	0.67	-	-	-	+	-	
14	15号住居跡	隅丸方形?	0.33	3.9	2+	?	4?	2.6	2.0	0.68	-	-	-	+	-	
15	16号住居跡	隅丸方形?	0.36	4.0	1.5+	+	4?	2.6	1.7	0.65	-	-	-	+	-	
16	17号住居跡	隅丸長方形?	0.42	6.2	2.5+	+	6?	4.5	2.5	0.73	-	-	-	+	-	
17	18号住居跡	隅丸方形?	0.35	3.1	1.8+	+	?	?	?	-	-	-	-	+	5	
18	19号住居跡	隅丸長方形	0.33	5.4	3.2	+	4+	4.5	2.5	0.83	-	-	-	+	-	
19	20号住居跡	隅丸長方形?	0.35	5.6	3.1+	+	6?	2.5	2.3	0.45	-	-	-	+	-	
20	21号住居跡	隅丸方形?	0.59	4.4	4.0	+	4	2.8	2.7	0.64	-	-	-	+	-	
21	22号住居跡	隅丸長方形?	0.42	3.5	2.3+	+	4+	3.1	?	0.87	-	外	-	+	-	
22	23号住居跡	隅丸長方形?	0.35	6.3	1.8+	?	6?	?	?	-	?	?	-	+	7	
23	24号住居跡	隅丸方形?	0.30	4.8	3.2+	+	4	3.3	2.0	0.69	?	?	-	+	-	
24	25号住居跡	隅丸方形?	0.30	3.5	2.2+	?	?	?	?	-	?	?	-	+	-	
25	26号住居跡	隅丸方形?	0.33	3.6	2.2+	?	3+	?	?	-	?	?	-	+	-	
26	28号住居跡	隅丸方形?	0.43	3.4	2.1+	?	2+	2.5	?	0.74	?	?	-	?	?	
27	29号住居跡	隅丸長方形	0.31	5.5	3.7	+	4	5.1	2.8	0.93	-	-	-	+	-	中央部に溝あり
28	30号住居跡	隅丸方形?	0.36	3.9	3.4	+	4?	2.6	2.0	0.66	-	-	-	+	-	
29	31号住居跡	隅丸長方形	0.35	5.6	3.9	+	6	4.3	3.1	0.76	-	-	2	+	-	
30	32号住居跡	隅丸長方形	0.35	3.6	2.5	+	3+	2.5	1.3	0.70	-	-	-	+	-	
31	34号住居跡	隅丸長方形?	0.38	3.1	1.7+	+	6	1.7	2.1	0.56	-	-	-	+	-	
32	35号住居跡	長方形	0.41	3.7	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	
33	36号住居跡	方形	0.37	3.1	3.0	+	4	1.7	1.3	0.54	-	-	-	+	-	
34	37号住居跡	方形?	0.42	3.1+	2.2+	+	2+	?	?	-	-	-	-	+	2	
35	38号住居跡	長方形?	0.43	4.1	0.5+	?	?	?	?	-	?	?	-	+	9	
36	39号住居跡	隅丸方形	0.50	3.5	3.1	+	6	2.8	1.9	0.79	-	-	-	+	3	
37	41号住居跡	隅丸長方形	0.45	5.2	3.2	+	6	4.0	2.3	0.77	-	-	4	+	1	
38	42号住居跡	方形	0.35	3.2	3.2	-	4	2.3	1.9	0.73	-	-	-	+	-	
39	43号住居跡	隅丸方形	0.33	4.0	3.1	?	4	3.4	2.2	0.86	?	?	-	+	-	
40	44号住居跡	隅丸方形	0.33	4.2	3.3	+	4	3.1	2.0	0.74	-	-	-	+	-	
41	45号住居跡	隅丸方形	0.28	4.5	2.1+	+	4?	2.9	?	0.64	-	-	-	+	-	
42	46号住居跡	方形	0.41	3.9	3.1	+	4	2.9	2.1	0.75	-	-	-	+	-	
43	47号住居跡	隅丸方形?	0.22	?	?	?	?	?	?	-	?	?	-	?	?	
44	48号住居跡	隅丸方形?	0.29	4.0	1.0+	?	?	2.4	?	0.60	?	?	-	?	?	
45	49号住居跡	隅丸長方形	0.43	5.0	3.8	+	6	3.7	2.5	0.74	-	-	1	+	1	
46	50号住居跡	隅丸長方形	0.40	5.8	3.9	+	6?	4.7	3.2	0.82	-	-	-	+	-	

■ 推定値

表3 検丹里遺跡の住居跡データ (その2)

No.	遺構名	平面形態	最大角湾曲率	長さ	幅	炉跡	主柱穴	柱間長さ	柱間幅	柱穴偏在	中央土坑	二柱穴	補助柱穴	周溝	周溝柱穴	備考
47	51号住居跡	隅丸長方形	0.37	5.6	4.1	+	6	4.1	2.6	0.73	-	外	-	+	-	
48	52号住居跡	隅丸長方形	0.32	5.0	2.0+	?	6+	3.5	?	0.70	?	?	-	+	-	
49	53号住居跡	隅丸方形	0.44	3.5	3.4	+	4	2.3	2.5	0.65	-	-	-	+	-	主柱穴は二つずつあり
50	54号住居跡	隅丸方形	0.32	2.7	2.3	+	4	2.0	1.3	0.73	?	?	-	+	-	北西、北東の隅に主柱穴二つずつあり
51	55号住居跡	隅丸方形	0.50	3.8	2.3+	+	4?	2.8	?	0.74	-	-	-	+	1	
52	56号住居跡	方形	0.54	3.6	1.9+	+	4	2.8	1.9	0.78	-	-	2	+	-	
53	58号住居跡	方形?	0.48	3.6	3.5	-	4	2.6	2.5	0.72	-	-	-	-	-	
54	59号住居跡	隅丸長方形	0.39	3.6	2.7	+	4	2.8	1.6	0.78	-	-	-	+	-	北東、南東の隅に主柱穴二つずつあり
55	60号住居跡	隅丸長方形	0.39	6.4	3.7	+	6	4.8	2.3	0.75	-	-	-	+	-	
56	61号住居跡	方形	0.50	3.9	3.6	+	4	2.5	2.2	0.65	-	-	-	+	-	
57	63号住居跡	方形	0.39	4.4	3.5	-	4	2.8	2.5	0.64	-	-	-	+	10	
58	64号住居跡	?	-	1.3+	0.7	?	1?	?	?	-	?	?	2?	+	-	
59	65号住居跡	隅丸長方形?	0.45	6.2	1.0+	?	4+?	5.0	?	0.80	?	?	-	+	-	
60	67号住居跡	隅丸方形?	0.31	2.1+	2.7	?	4?	?	1.9	-	?	?	-	+	-	
61	68号住居跡	?	-	3.6+	0.3+	?		?	?	-	?	?	1?	+	-	
62	69号住居跡	隅丸長方形	0.40	7.2	4.0	+	8?	4.7	3.1	0.66	-	外	-	+	-	
63	70号住居跡	隅丸長方形	0.41	2.8+	2.1	+	?	?	?	-	-	-	-	?	?	付属施設の可能性高い
64	71号住居跡	?	0.28	0.8	1.9+	?	3+	?	?	-	?	?	-	?	?	
65	72号住居跡	隅丸長方形	0.37	4.9	3.8	?	6	3.8	2.8	0.77	?	?	-	+	-	
66	73号住居跡	隅丸長方形?	-	5.1+	1.9+	?	3+	-	-	-	?	?	4+	+	6+	
67	74号住居跡	隅丸長方形	0.38	4.0	2.9	-	4?	2.8	?	0.69	-	-	-	?	?	
68	77号住居跡	長方形	0.40	3.8	2.9	-	4	2.6	2.1	0.68	-	-	-	+	-	
69	78号住居跡	隅丸長方形?	0.40	3.0+	3.8	+	1+	?	?	-	-	-	-	+	-	
70	79号住居跡	長方形	0.40	5.3	3.3	-	6	4.3	2.4	0.80	-	-	-	?	?	
71	80号住居跡	隅丸方形	0.38	3.8	1.9+	+	4?	2.8	1.7	0.73	-	-	-	+	-	
72	81号住居跡	長方形	0.45	4.9	2.7	?	6	3.6	2.5	0.73	?	?	-	+	-	
73	82号住居跡	隅丸長方形	0.38	4.2	3.2	+	4	2.9	1.7	0.69	-	-	-	+	-	炉跡に近接して柱穴一つあり
74	83号住居跡	長方形	0.43	4.5	3.1	+	4	3.0	1.6	0.67	-	-	-	+	-	
75	84号住居跡	隅丸方形	0.33	3.7+	3.8	+	4	2.8	2.4	-	-	-	-	+	-	
76	87号住居跡	長方形	0.39	3.7+	2.7+	?	1+	?	?	-	-	-	-	+	1	
77	89号住居跡	方形	0.39	4.2	3.2	+	4	3.0	2.6	0.71	-	-	-	+	-	炉跡に近接して柱穴一つあり
78	90-1号住居跡	隅丸長方形?	0.36	4.4	2.4	+	6	3.1	2.9	0.70	-	-	-	+	-	
79	90-2号住居跡	?	-	?	?	?	5+	4.1	2.9	-	?	?	-	?	?	高床家屋とされている
80	92号住居跡	隅丸方形	0.37	3.8	1.8+	+	4	2.2	1.8	0.57	-	-	-	?	?	
81	93号住居跡	?	-	1.8+	0.6+	?	?	?	?	-	?	?	-	?	?	
82	95号住居跡	隅丸方形?	0.42	2.6	1.5+	?	?	?	?	-	?	?	-	?	?	
83	98号住居跡	方形	0.47	4.0	1.7+	+	3+	3.4	1.9	0.84	-	-	-	+	-	東南隅に主柱穴三つあり
84	100号住居跡	方形?	0.50	4.3	2.9+	-	3+	2.5	2.5	0.59	-	-	-	+	-	
85	101号住居跡	?	0.40	3.7+	2.0+	?	?	?	?	-	?	?	-	+	-	
86	102号住居跡	方形	0.45	4.6	2.9+	+	7	3.5	2.6	0.77	-	-	-	+	-	
87	103号住居跡	方形	0.39	3.2	2.7	?	3+	2.3	1.8	0.71	?	?	-	+	-	
88	104号住居跡	長方形	0.45	4.2+	3.5	+	4+	?	2.8	-	-	-	-	?	?	
89	105号住居跡	隅丸方形?	0.38	3.1	1.5+	?	?	?	?	-	?	?	2	?	?	
90	106号住居跡	方形?	0.43	3.4	1.5+	?	?	?	?	-	?	?	2	?	?	
91	107号住居跡	隅丸長方形?	0.42	2.9+	3.2	+	3+	?	2.0	-	-	-	-	+	-	
92	108号住居跡	隅丸方形	0.40	4.0	1.6+	+	4	3.1	2.3	0.78	-	-	-	?	?	北東、南東の隅に主柱穴二つずつあり

推定値

表4 大坪里遺跡の住居跡データ

No.	地区名	遺構名	平面形態	最大角 湾曲率	長さ	幅	炉跡	主柱 穴	柱間 長さ	柱間 幅	柱穴 偏在	中央 土坑	二柱 穴	二柱 距離	補助 柱穴	備考
1	漁隠2地区	1号住居跡	隅丸方形	0.31	3.8	3.6	+	-	-	-	-	+	-	-	-	
2	漁隠2地区	4号住居跡	長方形	0.33	4.8	2.5	-	-	-	-	0.14	+	外	0.66		
3	漁隠2地区	5号住居跡	不整形	0.32	3.3	3.1	-	-	-	-	0.27	+	外	0.9	-	
4	漁隠2地区	7号住居跡	隅丸方形	0.25	4.0	3.3	-	-	-	-	0.35	+	外	1.38	-	
5	漁隠2地区	8号住居跡	隅丸方形	0.14	4.2	3.2	-	-	-	-	0.26	+	外	1.08	-	
6	漁隠2地区	9号住居跡	隅丸方形	0.17	3.3	2.9	-	-	-	-	0.25	+	内	0.84	-	
7	漁隠2地区	10号住居跡	?	-	?	?	-	-	-	-	-	+	外	0.36	-	
8	漁隠2地区	12号住居跡	隅丸方形	0.25	4.9	4.3	-	-	-	-	0.32	+	外	1.56	-	
9	漁隠2地区	13号住居跡	隅丸方形	0.19	4.2	3.8	-	-	-	-	0.30	+	外	1.26	-	
10	漁隠2地区	14号住居跡	隅丸方形	0.21	4.8	3.9	-	-	-	-	-	+	外	-	-	
11	漁隠2地区	15号住居跡	長方形	0.29	5.1	2.5	-	-	-	-	-	+	-	-	-	
12	漁隠2地区	16号住居跡	隅丸方形	0.28	4.8	4.4	-	-	-	-	0.19	+	外	0.84	-	
13	漁隠2地区	17号住居跡	隅丸方形	0.40	4.5	4.3	-	-	-	-	0.22	+	外	0.96	-	
14	漁隠2地区	18号住居跡	隅丸方形	0.26	3.6+	3.8	-	-	-	-	-	+	外	1.26	-	
15	漁隠2地区	19号住居跡	隅丸方形	0.31	4.0	3.3	?	?	?	?	-	?	?	-	?	
16	漁隠2地区	20号住居跡	隅丸方形	0.23	4.0	3.0+	-	-	-	-	0.17	+	内・外	0.66	-	
17	漁隠2地区	21号住居跡	隅丸方形	0.38	2.9	1.0+	?	?	?	?	-	?	?	-	?	
18	漁隠2地区	22号住居跡	隅丸方形	0.28	3.5	3.3+	-	-	-	-	0.34	+	外	1.2	-	
19	漁隠2地区	23号住居跡	隅丸方形	0.35	3.3	3.0	-	-	-	-	0.29	+	外	0.96	-	
20	漁隠2地区	24号住居跡	隅丸方形	0.33	4.9	4.1	-	-	-	-	0.24	+	外	1.2	-	中央土坑二つあり。二柱距離は北側のもの
21	漁隠2地区	25号住居跡	隅丸方形	0.23	4.8	4.0	-	-	-	-	0.28	+	外	1.32	-	
22	漁隠2地区	26号住居跡	隅丸方形	0.33	5.6	4.4	-	-	-	-	0.30	+	外	1.68	-	
23	漁隠2地区	27号住居跡	隅丸方形	0.20	3.6	3.0	-	-	-	-	0.31	+	外	1.12	-	
24	漁隠2地区	28号住居跡	方形	0.45	3.7	3.2	-	-	-	-	-	+	外	-	-	
25	漁隠2地区	29号住居跡	隅丸長方形	0.34	6.3	4.7	-	-	-	-	0.30	+	外	1.86	-	
26	漁隠2地区	30号住居跡	長方形	0.40	5.2	2.2	-	-	-	-	0.32	+	外	1.68	-	
27	漁隠2地区	31号住居跡	隅丸方形	0.19	5.9	4.9	-	-	-	-	0.33	+	外	1.92	-	
28	漁隠2地区	32号住居跡	隅丸長方形	0.25	5.2	2.7	-	-	-	-	0.27	+	外	1.38	-	
29	漁隠2地区	33号住居跡	隅丸長方形	0.31	4.0	2.6	-	-	-	-	0.24	+	外	0.96	-	
30	漁隠2地区	34号住居跡	隅丸方形	0.23	2.5+	3.3	-	-	-	-	-	+	外	-	-	
31	漁隠2地区	35号住居跡	隅丸方形	0.43	3.9	3.5	-	-	-	-	0.43	+	外	1.5	-	
32	漁隠2地区	36号住居跡	隅丸長方形	0.30	5.1	2.6	-	-	-	-	-	+	-	-	3	
33	漁隠2地区	37号住居跡	隅丸方形	0.28	4.4	3.8	-	-	-	-	0.16	+	内・外	0.72	-	
34	漁隠2地区	38号住居跡	隅丸方形	0.39	4.8	3.9	-	-	-	-	0.26	+	外	1.26	-	
35	漁隠2地区	39号住居跡	隅丸方形	0.34	4.9	4.1	-	-	-	-	0.18	+	外	0.9	-	
36	漁隠2地区	40号住居跡	隅丸方形	0.38	3.9	3.4	-	-	-	-	0.26	+	外	1.02	-	
37	漁隠2地区	41号住居跡	隅丸方形	0.32	4.4	4.0	-	-	-	-	0.22	+	外	0.96	-	
38	漁隠2地区	43号住居跡	隅丸方形	0.33	5.3	4.4	-	-	-	-	0.28	+	外	1.5	-	
39	漁隠2地区	44号住居跡	隅丸方形	0.40	5.9	4.5	-	-	-	-	0.32	+	外	1.86	-	
40	漁隠2地区	45号住居跡	隅丸方形	0.40	3.9	3.6	-	-	-	-	0.28	+	外	1.08	-	
41	漁隠2地区	46号住居跡	隅丸方形	0.36	4.3	3.9	-	-	-	-	0.20	+	内・外	0.84	-	
42	漁隠2地区	47号住居跡	隅丸長方形	-	2.9+	2.0	-	?	?	?	-	+	-	-	?	
43	漁隠2地区	48号住居跡	隅丸方形	0.40	5.1	3.4+	-	-	-	-	0.21	+	外	1.08	-	
44	漁隠2地区	49号住居跡	隅丸長方形	0.35	4.6	2.8	-	-	-	-	0.26	+	外	1.2	-	
45	漁隠2地区	50号住居跡	隅丸長方形	0.41	4.2	2.0	-	-	-	-	0.21	+	外	0.9	-	
46	玉房8地区	1号住居跡	隅丸長方形	0.40	7.5	5.8	-	4	3.2	1.8	0.43	+	-	-	-	